九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

増補 フィクトセクシュアル宣言 : 台湾における〈アニメーション〉のクィア政治

廖, 希文
国立台湾大学社会学部・台湾フィクトセクシュアル集散地

松浦, 優
九州大学大学院人間環境学府 : 博士後期課程

https://doi.org/10.15017/7236466

出版情報：人間科学共生社会学. 13, pp.1-37, 2024-03-31. Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

増補 フィクトセクシュアル宣言

── 台湾における〈アニメーション〉のクィア政治 ──

廖　希文・松浦　優

解題（松浦優）

本稿は、台湾におけるフィクトセクシュアルに関する議論を紹介するものである。本文として、廖希文と松浦優による「フィクトセクシュアル宣言」、および廖による補論「「フィクトセクシュアル支持的空間」には何が必要か」の日本語版を掲載している。本文に先立って、松浦による解題として、フィクトセクシュアルに関する文脈の説明と、著者の廖希文についての紹介をしておく。

まずは「フィクトセクシュアル」という用語について、とくに英語の fictosexuality と日本語のフィクトセクシュアルと台湾華語の紙性戀の関係を確認しておく。まず英語の fitosexuality は虚構（fiction）の存在へ性的に惹かれることを指す言葉だが、ここで言う虚構的対象には、たとえば小説の登場人物なども含まれる。そのため fictosexuality は、マンガやアニメなどのいわゆる二次元キャラクターに惹かれることのみに限定されているわけではない。

日本語では、フィクトセクシュアルを「二次元性愛」と訳している事例が散見されるが、前述の理由から、「二次元性愛」は fictosexuality の訳語としては正確ではない。強いて fictosexuality を訳すとすれば「虚構性愛」のほうが適切であり、二次元性愛はそのサブカテゴリーとして位置づけられることになると思われる。とはいえ日本語では、セクシュアリティのカテゴリーをそのままカタカナで翻訳することが一般的であるため、「フィクトセクシュアル」という表記が用いられている。

これに対して、「フィクトセクシュアル宣言」本文での注でも触れられているとおり、紙性戀はもともと漢語圏のファンダムにおける俗語で、日本語では「二次元コンプレックス」に近いニュアンスで使われていたようである。しかしその後 fictosexuality の訳語として使われるようになっており、「フィクトセクシュアル宣言」も原著では「紙性戀宣言」と題されている。

以上を踏まえたうえで、廖希文の活動について、および台湾でのフィクトセクシュアルをめぐる運動や研究の状況について紹介する。廖はフィクトセクシュアルに関する研究やアクティヴィズムを行なっている学術運動家で、現在（2024年３月時点）は国立台湾大学社会学部に在

籍している。廖の行った質的調査については、一部が廖（2024）にまとめられている。またフィクトセクシュアル当事者であることに加えて、ノンバイナリーであることをオープンにしている。

廖が2019年に設立したのが、臺大御宅研究讀書會（台大オタク研究読書会）である。もともとはオタク研究に関する読書会を行なったり、批評系の同人誌『Rhizome｜球根』を台湾の同人誌即売会「Fancy Frontier 開拓動漫祭」で頒布したりしていたが、フィクトセクシュアルに関する議論が深まるにつれて、フィクトセクシュアルの当事者団体やアクティヴィズム団体という側面を持つようになっていった。筆者の知るかぎりではかぎりでは、フィクトセクシュアル・アクティヴィズム団体としては世界で最初のものである。

廖はこれまで、台湾のフェミニズム系書店である女書店（Fem Books）と共同で、フィクトセクシュアルに関する講演を開催している。2023年８月23日には筆者の講演および筆者と廖との対談イベント「從紙性戀思考性與性別的政治（フィクトセクシュアルから考えるジェンダー／セクシュアリティの政治）」、2023年11月17日には台灣拉岡實踐與推廣協會（台湾ラカン派実践推進協会）理事の郝柏瑋との講演「非對人性戀的多重定向：酷兒閱讀《戰鬥美少女的精神分析》（非対人性愛的な多重見当識：『戦闘美少女の精神分析』をクィアリーディングする）」が実施されている[1)]。

2023年８月23日には上記の講演とあわせて、フィクトセクシュアルおよび非対人性愛に関する情報発信サイト「非現實國度｜台灣紙性戀集散地（非現実の王国：台湾フィクトセクシュアル集散地）」[2)]が開設され、日中英３ヶ国語で啓発情報を継続的に投稿している。また、廖はフィクトセクシュアルのオンライン・コミュニティの運営も行っている。

廖の活動はフィクトセクシュアル以外にも及んでいる。たとえば台湾フィクトセクシュアル集散地では、フィクトセクシュアル以外の非対人性愛についても情報を紹介している。エイミー・マーシュによる対物性愛研究の論文（Marsh 2010）の繁体字訳を公開[3)]したほか、2024年３月15日に女書店で「對物性戀與人偶戀初探：非對人性戀・萬物的性別・對物倫理（対物性愛と人形愛の概説：非対人性愛・万物のジェンダー・対物倫理）」という講演を実施している[4)]。現在はさらに、アセクシュアルや「偽娘」（日本語で言う「男の娘」、詳細は本文での注を参照）、ファーリーなどの団体や研究者との連帯を進めているとのことである。

台湾におけるフィクトセクシュアル研究の状況についても手短に触れておく。フィクトセクシュアル研究というフレームでの議論自体がごく最近になって現れたものだが、台湾でも最近になって学会発表レベルで研究報告がなされつつある。廖の学会報告として、2023年４月29日の台湾 ACG 研究学会での「フィクトセクシュアルの境遇とフィクトセクシュアル・パラドックス：情動、想像とアニメーション関係」（廖 2024）、および2023年９月24日の台湾人類学・民俗学学会での「賦生親屬，非人成家：從東亞前現代異類婚姻到當代紙性戀婚禮（アニメートされた親族、非－人間の家族を作ろう：前近代東アジアの冥婚から現代のフィクトセクシュアル婚まで）」[5)]がある。このうち廖（2024）の発表は論文化されており、これが台湾で初のフィク

トセクシュアル研究の論文である。このほか筆者の確認できたかぎりでは、2023年11月18日に台湾社会学年会で、国立台北大学社会学系副教授の梁展章が「Becoming-fictosexual: Romantic relationship and attachment to fictional characters from the posthumanist perspective（フィクトセクシュアルへの生成変化――ポストヒューマニズム的観点から見た架空のキャラクターへの恋愛関係と愛着）」というタイトルで、フィクトセクシュアルの人々に対するインタビュー調査の結果を英語で報告している[6)]。台湾のフィクトセクシュアル研究では、社会学や人類学での調査が徐々に進んでいくことが期待される。

以上を踏まえたうえで、本文についての説明に移りたい。「フィクトセクシュアル宣言」はまず繁体字版[7)]が公開され、その後英語版[8)]と日本語版[9)]がウェブ公開されている。本稿は、すでに公開されているバージョンに大幅な加筆修正を施した増補版であり、刊行予定の台湾華語書籍『紙性戀宣言』に収録予定のテクストの日本語版である（ただし書籍版でさらなる修正が加えられる可能性もある）。以前のバージョンでは廖が単独で執筆していたが、今回のものは廖と松浦の共著である。

あわせて、補論として廖の論考「「フィクトセクシュアル支持的空間」には何が必要か」を掲載している。こちらはフィクトセクシュアルの活動やネットワークを成立可能にするための空間について、廖が自身の活動を通じて考察したものである。試論的な論考だが、多様な論点を提示しており、今後の議論の方向性を示す指針となりうるものである。また、台湾や中国の状況を念頭に置いた考察や事例紹介がなされている点でも、貴重なテクストである。日本とは異なる政治的・文化的な文脈があるという点にも注目しながら読んでいただきたい。

こちらは、まず台湾フィクトセクシュアル集散地で繁体字版と日本語版と英語版が公開されたものだが[10)]、本稿はその日本語版を大幅に加筆修正したものである。こちらについては、松浦が行なったのは最低限の日本語のチェックと一部の補注のみである。

最後に、本稿の副題の「台湾における〈アニメーション〉のクィア政治」についてだが、これは廖の提案によるものである。〈アニメーション〉概念および「アニメーションの政治」というフレーズは、人類学者テリ・シルヴィオの著作（Silvio 2019）に由来する。詳細は「フィクトセクシュアル宣言」のなかで説明されているため、そちらを参照してほしい。

（松浦優）

注

1）発表内容の一部は、廖のブログで日本語で紹介されている。廖希文，2024，「『戦闘美少女の精神分析』を読む①：虚構それ自体に性的対象を見い出すことができる人」（2024年５月９日取得，https://kifumiliao.hatenablog.com/entry/2024/04/27/013105）

2）2024年２月４日取得，https://www.facebook.com/ficto.sex.tw

3）Amy Marsh，廖希文，「【論文翻譯】對物性戀者之愛」『台灣紙性戀集散地．中文集中處』

（2024年３月11日取得，https://vocus.cc/article/65d1f708fd897800013a7a76?fbclid=IwAR0YPwqeKAf9LR7wUL0qX9Hmr_bpxszRxFqTsMB__k_EsK-N2VLND-_FUvc）

４）発表内容の一部は下記のブログを参照。廖希文，2024，「ヒト－モノ関係性における概念細分と対物倫理」（2024年５月９日取得，https://kifumiliao.hatenablog.com/entry/2024/04/08/225910）

５）報告についての日本語での紹介は下記のブログを参照。廖希文，2024，「二つの関係性：フィクトセクシュアルな「縁」と「絆」」（2024年５月９日取得，https://kifumiliao.hatenablog.com/entry/2024/04/10/212724）

６）この報告については廖から情報を提供していただいた。なお報告概要は以下のリンクで公開されている（2024年２月４日取得，https://www.tsameetings.org.tw/page.php?menu_id=79&new_id=375）。

７）2024年２月４日取得，https://vocus.cc/article/63e50830fd89780001292c2e

８）2024年２月４日取得，https://vocal.media/humans/fictosexual-manifesto

９）2024年２月４日取得，https://fictosexuality-taiwan.hatenablog.com/entry/2023/10/05/073902

10）2024年３月11日取得，https://www.facebook.com/ficto.sex.tw/posts/pfbid0TuH2zeqMEiVtW7ABiRGAYrVW7At2Nh3dpMq6cA4GsSXsJvCBhfA9vNrjCH78h97pl

フィクトセクシュアル宣言

――〈アニメーション〉のクィア政治――

要　　旨（増補 フィクトセクシュアル宣言）

このマニフェストは、フィクトセクシュアルに関するフィールドワークとクィア理論的研究をもとに、人間中心的なジェンダー観や性的規範性、そして存在論を問い直すべきだと主張するものである。

フィクトセクシュアルがクィアの運動や研究のなかで扱われるようになる過程では、アセクシュアル研究と二次元文化研究の蓄積が重要な役割を果たしてきた。さらに人類学者テリ・シルヴィオの「アニメーション」概念をポストヒューマニズム的パフォーマティヴィティとして読み替えることによって、架空の存在がもたらす「ジェンダー・トラブル」を、人間と非－人間のもつれから生じる攪乱としてクィア理論の系譜に位置づけることができる。またフィクトセクシュアルの人々は、キャラクターが生身の人間とは存在論的に異なるということに関する思索を通して、脱－人間中心的な存在論や倫理の可能性を切り開いている。

しかしながら、フィクトセクシュアルは支配的なジェンダー／セクシュアリティ・システムのもとで周縁化されてきた。この問題は「対人性愛中心主義」および「ヒューマノジェンダリズム」と呼ぶべきものである。対人性愛中心主義とヒューマノジェンダリズムは、性差別、異性愛規範、シスジェンダリズム、強制的性愛と結びついているだけでなく、人間中心的な存在論の問題でもある。こうした問題に取り組むことによって、クィアな世界制作への道が開かれるだろう。

キーワード：フィクトセクシュアルの視座、フィクトセクシュアルの生き方、対人性愛中心主義、ヒューマノジェンダリズム

現在のアセクシュアリティの理論化と同じく（……）二次元キャラクターへの欲望は、セックスとは何か、法的・社会的な禁止が性的アクセスや完全な性的市民権の権利をいかに否定するかを再考させるものである。（Miles 2020：274）

アセクシュアル・コミュニティにおける性的指向と恋愛的指向の区別と類比させて、性的指向を現実での「指向」と二次元での「指向」に複数化させるものとして、（引用者注：斎藤環の言う）「多重見当識」を位置づけることができる。要するに、これらはいずれも、セクシュアリティに関する理解を複数化させるものであり、その意味でアセクシュアル・コミュニティの実践と類比的に、強制的性愛を相対化するものとして捉えることができる。

（松浦 2021a：132）

1　フィクトセクシュアルはどのようにしてクィア運動の論点になったのか

フィクトセクシュアルとは、架空の対象へ惹かれる人々の性的アイデンティティです。「架空の対象への性的惹かれを経験するが、生身の人間に対して同様の感覚を持つことはほとんどないこと」、あるいはより広く「架空のキャラクターに対して性的／恋愛的／結婚への魅力や欲望を感じること」を指して使われます。アセクシュアル・コミュニティでは、生身の人間へ惹かれないフィクトセクシュアルは、アセクシュアル・スペクトラム（A-Spec）の一員として理解されています。フィクトセクシュアルのなかには、キャラクターとの親密関係を志向せず、エーゴセクシュアル（aegosexual）的に性的創作物を愛好する人もいます。また、現実の人間と架空のキャラクターの両方に惹かれる人が、自身のあり方を説明するための言葉として使うこともあります。とくに東アジアでは、マンガやアニメなどの二次元[11]キャラクターに対して性的に惹かれる性的アイデンティティを指す言葉として使われる傾向があります。

東アジアでは、2010年代後半頃から、アセクシュアルの可視化とともに、フィクトセクシュアルという言葉が広まりました。しかしこれはフィクトセクシュアルが2000年代以降のアセクシュアル運動とともに存在するようになったということではなく、それ以前から他のさまざまなアイデンティティとして認識されていました[12]。その最たる例が、日本における「二次元コンプレックス＝二次コン」です。たとえば、1983年の雑誌『漫画ブリッコ』では、ある読者が読者投稿欄で以下のように名乗っています。

> ぼくは二次元コンプレックスです。従って巻頭の［注：ヌード］写真あたりには特に何も感じません。という訳で、その①の写真を全部やめて漫画のみにしてもらいたい。（『漫画ブリッコ』1983年８月号，Galbraith 2019：56 より引用）

この雑誌の当時の編集者であり、有名な民俗学者の大塚英志によれば、当時は実写のヌード写真を掲載することがエロ雑誌業界で一般的でしたが、『ブリッコ』では実写ヌードに対して奇妙な反応が生まれました。多くの読者が二次元美少女イラストの隣に並ぶヌード写真に違和感を覚えたのです。大塚はこれらの意見に応じてヌード写真を削除し、『ブリッコ』は純粋な美少女漫画雑誌になりました（大塚 2004；Galbraith 2019）。この出来事は後にオタク論における有名な事例となっています。

注目すべきは、「二次元」と「三次元」がまったく異なる性的対象として区別されていたことです。つまり「二次元キャラクター」というのは、単なる架空の人間（fictional human）ではなく、人間から切り離された、人間とは異なるカテゴリーの存在なのです[13]（Nozawa 2013；松浦 2022a）。実際に、1989年に出版された『おたくの本』では、「二次コン」、「やおい」、「人形愛」

などを「第三の性」として、従来の「異性／同性」の枠組みから独立するものとして取り上げようとする議論が見られました（別冊宝島編集部編 1989）。また女性向けとされるジャンルでも、初期のやおいについて、女性が「自分と性愛との間に安全な距離を作ること、ひいては、自分にも〈性愛を遊ぶ〉こと」を可能にするものとしてフェミニズム的に評価する議論がありました（藤本 1991：283）。

しかし学術的には、この数十年間にわたって、フィクトセクシュアルや二次コンがセクシュアリティとして真剣に扱われることはほとんどありませんでした。既存の研究では、フィクトセクシュアルはファンダムやサブカルチャー研究、消費や受容に関する研究、パラソーシャル関係の研究、および「らしさ」研究の一環として扱われてきました。しかしこれらのアプローチは、フィクトセクシュアルを「セクシュアリティ」として真剣に扱ううえでは有益ではありません。フィクトセクシュアルのなかにはファンである人もいますが、かれら全員がファンであるわけではありません。また後述するように、架空のキャラクターと人との関係は、単純な一方向的関係ではなく、より複雑な「アニメーティング関係」と捉えるべきものです。

こうした動向のなかで例外的に、人類学者のパトリック・ガルブレイスが、オタクの歴史を再検討した際にこのセクシュアリティを直視して、斎藤環の精神分析的オタク研究を引用しながら、こうしたセクシュアリティを「フィクションに対するある欲望の指向＝見当識（an orientation of desire toward fiction）」として明示的に論じました（Galbraith 2019）。しかしながら、斎藤の理論は異性愛規範的な枠組みを超えるものではなく[14]、ガルブレイスもこの「指向＝見当識」が「異性愛／同性愛」という「性的指向」とどのように異なるものなのか、踏み込んで分析して理論化することはしませんでした。

こうした状況を変えたのが、対人性愛中心主義という概念の誕生です。日本のフィクトセクシュアルたちは、生身の人間に惹かれる性的マジョリティを表す概念として、対人性愛という造語を使い始めました。そしてかれらは対人性愛を相対化する際に、同時にアセクシュアルを周縁化する社会にも批判を向けていました。これを踏まえて、松浦は「生身の他者に対して性的・恋愛的に惹かれることが規範的なセクシュアリティとされること」を「対人性愛中心主義」と概念化しました（松浦 2021b：74）。フィクトセクシュアルの人々がアセクシュアルの周縁化にも批判を向けていたことから分かるように、対人性愛中心主義への批判は強制的性愛への批判を含んでいるのです。

これと同じ時期に、二次元に対する性的惹かれを「第三の性的指向」とみなす観点がいくつかの研究から提起されました（Miles 2020；松浦 2021a）。なかでも松浦（2021a）は、フィクトセクシュアル当事者へのインタビュー調査にもとづいて、かれらがアセクシュアルの人と似た経験をすることがあることを示しました。そのうえで松浦は、精神分析家の斎藤環がオタクのセクシュアリティを説明するために提起した「多重見当識」[15] 概念を批判的に再解釈しました。性的指向と恋愛的指向の区別にならって、現実での性的指向と虚構での指向を区別する理論として「多重見当識」概念を読み替えて、狭義の「性的指向」概念を複数形へと拡張したのです。

このように、フィクトセクシュアルはアセクシュアルとの連帯を通して、クィア・スタディーズの論点として位置づけられていきました。

2　フィクトセクシュアルの政治的可能性 ── アニメーションによるクィアな誤配

二次元という概念は、アニメ的あるいはマンガ的な表現様式やジャンルを表すものだと考えられがちです。しかし二次元を、単に特殊な表現様式で人間を描いたものだと誤認してしまうと、フィクトセクシュアルの人々が人間とは異なる存在を欲望しているということを理解できなくなります。むしろフィクトセクシュアルの欲望対象は、ある種の人工物であり、生身の人間とは存在論的に異なるものだと理解したほうがよいのです。フィクションとフィクトセクシュアルについて議論する際に、人工物の存在論的身分を他のカテゴリーへと還元しないよう注意が必要です。(松浦 2022a，2022b)。

また松浦は、人類学者テリ・シルヴィオの提起した知的革新を援用しています。シルヴィオは、2010年に「比喩としてアニメーション（Animation as a Trope)」を提示し、それによってテレビ的な世界観としての「パフォーマンス・パラダイム」を相対化することを提案しました(Silvio 2010)。シルヴィオは「パフォーマンス」と「アニメーション」という２つのパラダイムにおいて、異なる心理的方向性を見出しています。

> パフォーマンスは、外部のモデル（役割やイメージ）から性質を取り入れ、身体の媒介（発話やジェスチャーなど）を通してその性質を表現することを通して、社会的自己（個人的あるいは集団的アイデンティティ）を構築すること（Silvio 2019：18）

> アニメーションとは、創造、知覚、相互作用の行為を通じて、人間として認識される性質 ── 生、魂、力、エイジェンシー、志向性、人格など ── を自己の外側と感覚的環境に投影することによって、社会的他者を構築すること（Silvio 2019：19）

テレビ的な世界観である「世界は劇場である（theatrum mundi)」に対して、シルヴィオは「アニメーション」の語源である「命を与える」に立ち返り、万物に生気を吹き込む（アニメートする）という行為があると指摘します。パフォーマンス・パラダイムは自己を中心とするものであるのに対し、アニメーション・パラダイムは他者を中心とするものです。パフォーマンス的行為は自己の同一性を構築する一方で、アニメーティヴな行為は他者の差異性を構築します。そしてアニメーション・パラダイムは、アニメーティヴな行為が一方向的ではないことを明らかにするものです。つまり人々と万物は互いにもつれ合いながら生成されるのであり、人々は万物のエイジェンシーに依存しているのです。そのように考えることによって、脱魔術化された世界において、人類は単なる孤独な一人芝居をしているのでなく、多彩なモノたちとともに存在しているのだ

ということを理解できるようになるでしょう[16)]。

2.1　非－人間のエイジェンシーによるアニメーティヴな誤配

フィクトセクシュアル関係における人工物の存在論的身分を、アニメーション・パラダイムにもとづいて見直せば、フィクトセクシュアルが人工物をアニメートする過程や、アニメーションによって人工物を制作する過程において、非－人間の絶えざる脈動（vibrant）によって既存の象徴的秩序と社会規範が攪乱されていることが明らかになるでしょう。非－人間の脈動を把握したり承認したりするための理論は、アイデンティティやパフォーマンスという人間中心の論理ではなく、他者に生気を吹き込む万物指向の論理なのです。このことを考えるうえで示唆に富むのが、東浩紀による精神分析のデリダ的解釈です。

> デリダの「エクリチュール」という術語は、教科書的には、同一性をもたない記号の運動を指示するとされている。したがって表象代理（引用者注：representative representation; vorstellung-repräsentanz）をエクリチュールに読み換えるという彼の提案は、そのかぎりでは、シニフィアンによるイメージの止揚がつねに失敗すること、欲望の宛先がつねに不完全にしか同定できないこと（誤配可能性）を意味する。（東 2011：253 強調原文）

情報、記号、言語、文字などの物質性に焦点を当てれば、記号運動というものが単なる作者と読者、話し手と聞き手の間の直接的な伝達だけで完結するものでなく、情報伝達の経路に無数の非－人間のエイジェンシーが満ちており、これらのエイジェンシーの脈動によって情報伝達に大小さまざまな「ズレ」が発生する可能性が常に付きまとっていることが分かります。あるいは、シルヴィオ的なアニメーションはカレン・バラッド（2007＝2023）の言うポストヒューマニズム的パフォーマティヴィティの一種なのです。その意味でアニメーションもまたパフォーマティヴな攪乱を生じさせます。それがデリダ的な「誤配」なのです。このことを、松浦は以下のように説明しました。

> 誤配とは、情報の送り手と受け手の間で、非人間的アクター（記号、言語、メディアの物質性など）がもたらすズレである。その誤配によって、記号そのものがイメージと化し、表象代理が「代理」ではなくなる。これによって、現実世界を表象代理する記号だったはずのものが、それ自体として新たなカテゴリーの存在物となる。すなわちアニメーション的な誤配よる攪乱とは、以前には存在しなかったカテゴリーの存在物をアニメーションによって構築することを通して、知覚の仕方や欲望のあり方を変容させることである。（松浦 2022a：68 強調原文）

アニメーティヴな誤配は、単に解釈の多様性や地平の融合のみによって生じるものでもなけ

れば、人間の主意主義的な実践のみによって生じるのでもなく、非－人間の存在を通じて生じるものです[17]。あるいはアニメーティヴな誤配は、人間と非－人間のもつれ合いを通じて、万物のネットワークを持続的に組み替えることだとも言えます。アニメーティヴな行為における非－人間の脈動によって、シニフィアン（象徴界）にイメージ（想像界）を入力するという「誤配」が生じ、非世界的な万物を世界化し[18]、それによって私たちの知覚と欲望が攪乱されるのです。

そのような事態こそ、もともとは人間を指し示す「表象」だったはずの図像が、それ自体に生気を吹き込まれることによって、「二次元キャラクター」という新たなカテゴリーの存在物となるという現象なのです。そして二次元キャラクターという新たなタイプの存在物は、ジェンダーやセクシュアリティをめぐるあり方にも変化をもたらします。それが、「『生身の人間の女性』と『二次元の女性キャラクター』は『同性』であるとはかぎらない」という現象が生じるというものです。もちろんこれは「生身の人間の男性」と「二次元の男性キャラクター」でも同じです。これまでにも、やおいにおける「美少年」やロリコンにおける「美少女」が（生身の）男性とも（生身の）女性とも異なる「第三のジェンダー」であると示唆されてきました（McLelland 2005；Galbraith 2011）。このような攪乱は、ディルドが「起源」としてのペニスから逸脱していくというポール・B. プレシアド（2018＝2022）の論じた現象と相似なものであり、アニメーティヴな誤配によるジェンダー・トラブルとして真剣に受け取られるべきものなのです。

たとえば、かわいい美少女キャラクターを描いたり愛好したりする営みにおいては、かわいさを規範的な女性らしさとみなす価値観への批判は（意識的にも無意識的にも）企図されていないように見えます。ですが二次元キャラクターという存在者が成立している状況では、「かわいさ」を帰属する宛先が人間ではなく二次元キャラクターに変わります。ここにおいて、人間の女性にかわいさを要求する慣習が、二次元の女性キャラクターのかわいさを求めるという異なる営みへと変容しているのです。この例では、女性性のステレオタイプに対する欲望は、ある意味では二次元という領域へと「再生産」されていると言えるかもしれません。ですが、それは三次元の領域での再生産ではないのです。このような、再生産の宛先の誤配が起こるからこそ、二次元の女性キャラクターを欲望しつつ、生身の女性を欲望しないというセクシュアリティが存在できるようになるのです。

このことは、むしろ男性キャラクターを理解するときにこそ重要になります。たとえば「オレ様」的な男性キャラクターを愛好する人々は、「オレ様」的な支配的態度をとる生身の男性を欲望するわけではなく、またそのような男性性を現実で肯定するわけではありません[19]。しかし二次元と三次元の存在論的な違いを無意味なものとみなしてしまうと、こうした人々があたかも現実でも支配的な男性を好んでいるかのように誤認されてしまいます。そして「オレ様」キャラを愛好する人に女性が多いことを考えれば、二次元と三次元の違いを無視することは、まさにそうした女性たちが男性からの支配を望んでいるかのような偏見を助長しかねないのです。このように、アニメーションによる誤配はフェミニズム的にも重要だと言えます。

このような誤配によって、二次元に対する非対人性愛が成立するのです。この攪乱によって、生身の人間のジェンダーに向かう性的指向が方向づけ（ディスオリエンティング）を逸らされるとともに、性愛は生身の人間と実践されるべきものだという固定観念が揺るがされます。ここで注目すべきは、日本において対人性愛中心主義への批判が、二次元の「性的表現を愛好する立場にもとづいて」行なわれたことです（松浦 2021b：74 強調原文）。「公共圏におけるセクシュアリティの表象の増加は、それ自体としては、必ずしもセクシュアリティを強制するものではない」（Gupta 2015：139-40）というクリスティーナ・グプタの指摘は、フィクトセクシュアルについて考えるうえでも重要となります。言い換えれば、ジェンダーやセクシュアリティに関する規範が二次元の領域へ「再生産」されることを、三次元の領域（生身の男性／女性）への再生産だと短絡してしまうと、二次元性愛の存在を説明できなくなってしまうのです。

2.2　アニメーティヴな再帰性による不気味な存在論

フィクトセクシュアルに関する英語圏で最初の論文は、英語圏のオンライン・コミュニティの調査と心理学的アプローチにもとづいて、フィクトセクシュアルの経験における「フィクトセクシュアルのパラドックス」というテーマを提起しました[20]（Karhulahti & Välisalo 2021）。フィクトセクシュアルのパラドックスとは、キャラクターは「偽物なのだ」という「存在論的な懐疑」と、キャラクターが「本物になる」ことを望むという「存在論的な再構築への願い」を抱くという両価的な態度、およびそれにともなう不快感のことです（Karhulahti & Välisalo 2021）。その論文では「フィクトセクシュアルのパラドックス」と「フィクトセクシュアルのスティグマ」を無関係なテーマとして分類していましたが、廖（2024）は台湾のフィクトセクシュアル・コミュニティでのフィールドワークを通して、フィクトセクシュアルのパラドックスの象徴的権力の基盤を明らかにしました。

一方で、「存在論的な懐疑」は、架空のキャラクターが生身の人間とは存在論的に異なっていることを理解し、架空のキャラクターに関する存在論を再考することによって、非対人性愛が成立する可能性を切り開くものです。これに対して「存在論的な再構成への願い」は、架空のキャラクターが生身の人間と同じカテゴリーの存在になってほしいという願望であり、生身の人間とは異なる存在は正常な性愛の対象ではないという対人性愛中心主義的な思い込みを内面化することによって生じるものです。つまりここでパラドックスが生じる原因は、対人性愛中心主義にあるのです。

実際にフィクトセクシュアルの経験を詳しく調査した結果、かれらがスティグマを内面化している事例や、かれらが自身のセクシュアリティを隠すというクローゼットの経験が見出されました。対人性愛中心主義にもとづく「パラドックス」によって、かれらに不安や自己非難がもたらされていたのです[21]。また、こうした問題は部分的には、対人性愛中心主義的な社会のなかで、かれらの経験や非－人間との関係や相互作用の仕方や理解の仕方について、うまく言語化するための語彙が欠けている[22]ことに起因することも分かりました（廖 2024）。

しかしこれに対して、台湾での調査では、フィクトセクシュアルもまた再帰性を示していました。かれらはやみくもにフィクトセクシュアル関係に入っていくのではなく、自分たちの不安や周縁化された状況に立ち向かう能力を持っており、そして関係性のなかで「問題構成」や「問題への応答」という生き方を採用していました（廖 2024）。いわばかれらは積極的な「存在論的な懐疑」に取り組むことを通して、内面化された対人性愛中心主義を問い直し、それによって自分自身のあり方やキャラクターの存在を自ら受容できるように努めていたのです。

かれらの問題構成のなかで提起される問いには、「キャラクターや『次元の壁』とは何なのか」「私たちの欲望は何を意味しているのか」「非－人間と私たちの関係とは何なのか」といったものが含まれます。こうした問いかけを通して、フィクトセクシュアルの人々は多様な存在論的荷物（ontological baggage）[23] を構築します。この再帰性は、フィクトセクシュアルの視座の一部だと考えられます。廖（2024）はこれを踏まえて、ヘイルズ（Hales 2019）やシルヴィオ（Silvio 2019）と同じように、アニメーションのパラダイムをさらに掘り下げ、関係をアニメートすることは一方向的なプロセスではなく、アニメーションは単なる「投影」の一形態ではないということを強調しました。

> パフォーマティヴな再帰性がアクターと役割の間の裂け目に焦点を当てたのに対して、アニメーティヴな再帰性はアニメートする側とアニメートされる側の間の裂け目に、そして不気味なものの存在論の問題に焦点を当てる ── 単に自律的な生命の幻想だけでなく、それが幻想でない可能性についても。（Silvio 2019：71）

非－人間の他者との「かけがえのないタガいであること」（significant otherness）[24] を問うことで、フィクトセクシュアルの人々はこのようなアニメーティヴな再帰性に没入し、関係のなかで自己と他者に関する「解釈労働」（Graeber 2015=2017：94）[25] に携わり、その結果としてさまざまな存在論的荷物、あるいはある種の「不気味な存在論」を生み出します。アニメーションのパラダイムにおいて、「不気味なもの」はフロイト的な定義とは対照的に、エルンスト・イェンチによって説明された意味、すなわち、「一見したところ生きているように思われるものが本当に生を有しているのかどうか疑うことや、逆に、生命のない物体が本当に生を有していないのかどうか疑うこと」という精神的な不確実性を強調されます（Manning & Gerson 2013；Jentsch 1906=2009）。この意味で、不気味な存在論は、生気の階層的な存在論を見直すことを伴い、生気のなかに見いだされる「かけがえのないタガい」の認識を通して、真正性の階層的な存在論の見直しにつながり、そして対物倫理（*ethica ad rem*）[26] という脱－人間中心的でオルタナティブな倫理の可能性を開くものです。

このような見直しによって、攪乱はセクシュアリティの領域だけでなく、ジェンダーや親族関係、さらには人間と非－人間の関係の境界にまで拡張されます。フィクトセクシュアルの人々はキャラクターを取り巻く拡張的な情動のネットワークを構築し、多重見当識を通じて規範的

な「至高の現実」の外部にあるオルタナティブな経験や意識や欲望を捉え、そしてアニメーティヴな再帰性を通じて万物の真正性を再評価するのです（廖 2024）。このような世界のなかでは、「偽物」の人工物だからといって真正な存在ではないと決めつけられることはありません。そこでは人工物は人間よりも真正のものとなり、そして非対人性愛は対人性愛よりも真正のものとなりうるのです。

こうした状況はキャラクターを中心とした他の社会的世界でも見られます。たとえば台湾のファーリー・コミュニティでは、ファーソナは「私－ではない」（not-me）ものでありながら、日常生活における社会的役割よりも真正な自己を体現しています（徐 2024）。そして「キャラクターを媒介としたアニメーティングな相互作用」（Manning & Gerson 2013）としてのファーソナのパフォーマンスを通して、「ファーリーセクシュアリティ」[27] と呼ばれる、対人性愛とは異なる何かが見出されています（徐 2024）。また、北台湾の偽娘（wei-niang）[28] コミュニティも同じようなアニメーティングな相互作用をしています。偽娘は、日常生活における異性愛のシス男性としてのジェンダー化された社会的役割を切り離す可能性を創造するために、オルタナティブな「美少女」アイデンティティ（ほとんどキャラクターに近い）を構築します。この美少女アイデンティティは、普段は（コミュニティにおけるシェルターとなっているレンタル収納スペースのなかの）クローゼットに収納された衣服のなかに息づいていますが、偽娘のパフォーマンスの際には、この美少女アイデンティティがアニメートされ、ゲーム的リアリズムにもとづいた「クィアな時間と空間」がかれらのために開かれるのです（羅 2021）。

フィクトセクシュアルの視座や生き方は、不気味な存在論についてより多くのことを教えてくれたり、異なる仕方での「クィアな世界制作」を想像する仕方を示してくれたりします。フィクトセクシュアルの存在論的荷物は、人間中心的な自然主義（ナチュラリズム）[29] に挑戦する、新たな他者性（otherness）を中心とする新たな世界から持ち帰った贈り物なのです。これらの存在論的荷物は簡単に手に入るものではなく、「どうすればフィクトセクシュアルとして生き延びることができるか」という探究を通して得られた苦労の結果です。それを無駄にしないためにも、私たちはフィクトセクシュアルを真剣に受け止め、フィクトセクシュアルの視座から世界を再想像しなければなりません。

3　対人性愛中心主義とヒューマノジェンダリズム

3.1　フィクトセクシュアルの周縁化

それにもかかわらず、「このようなセクシュアリティの存在は社会で巧妙に不可視化されて」います（松浦 2022b：152）。日本における SNS 上の言説を調査した際、フィクトセクシュアルについて「処女、童貞（素人童貞含む）＝恋愛してない＝対人関係の構築がちゃんとできてない　だと思う。……これを LGBT に混ぜるのはおかしくないか？？」とみなす差別的投稿が散見されました（松浦 2021b：76）。この事例から分かるように、フィクトセクシュアルは Aro/

Ace と同じように、性愛や恋愛を人間としての「正常さ」に結びつける規範のなかで周縁化されています。

同じ問題は LGBT コミュニティ内でも生じることがあります。2020年、台湾で LGBT+ のプライドフラッグを宣伝するツイートが、Twitter（現 X）に投稿されました。さまざまなアイデンティティが提示されるなかには、フィクトセクシュアルも含まれていました。しかしこのツイートへの最初のリプライは、LGBT+ への支持あるいは反対を表明するものではなく、「フィクトセクシュアルはただの偽物だ！　LGBT+ に含めるべきではない！」と激しく非難するものでした。このような問題は、アセクシュアルの人々が LGBT アクティヴィストから攻撃されたことがあるという歴史と共通するものです。

対人性愛中心主義的な先入観のもとでは、すべての性的欲望は人間に対する欲望＝対人性愛でなければならず、架空の人工物は単なる現実の代替物や偽物でしかありえないとされてしまいます。これはネット民だけでなく、浅学な似非評論家も同様です。例として、２人の香港の学者による悪意ある騙りが挙げられます。

> オタクはペドフィリアを嫌悪すると主張している。しかしペドフィリアの自己満足と同じように、マンガ美少女を通じたオタクの自己満足は致命的な結果をもたらすかもしれない。かれらは現実の女性を愛することができず、結果として結婚できず、かれらの性的欲望は（……）生殖的で生物学的な意味で満たされたり実現されたりすることがない（……）オタクはブルジョワ結婚市場における敗者である（……）（Yiu & Chan 2013：862 強調引用者）

この２人が暗に前提としているのは、「オタクは生殖を望んでいるものの、誤った形での自己満足を選択している」「オタクはブルジョワ結婚市場で勝者になりたいと思っているが、誤った手段を用いている」というものです。かれらは「生物学的生殖」と「異性愛的結婚」を規範的なものする価値観のもとで、非対人性愛の存在を排除しており、さらに「オタク＝ペドフィリア」という社会的な神話を流布し続けています。かれらは強制的（異）性愛という象徴的暴力から、フィクトセクシュアルを「致命的な結果」として予め排除しようとしています。すなわち、かれらはフィクトセクシュアルを理解できず、また理解する必要もない病理的な例外としてたやすく排除して、議論の対象外にしようとしているのです。

さらにフィクトセクシュアルの周縁化は、フェミニズム的なレトリックをまとって行なわれることもあります。たとえば上野千鶴子は『女ぎらい』のなかで、「女性性の記号」だけに欲情することを「女を性欲の道具としか見なさない」ミソジニーだと批判しつつ（上野 2018：11）、「男が現実の女から「逃走」して、ヴァーチャルな女に「萌え」るのは、昔も今も同じ」（上野 2018：26）だと述べて、二次元の女性キャラクターに対する欲望もまた人間の女性に対する欲望と同じく、「誘惑者としての女がすすんで男の欲望に従うあいもかわらぬ男につごうのよい男権主義的な性幻想を再生産している」（上野 2018：99）と示唆しています。このような批判は、

対人（異）性愛の表象に対しては妥当かもしれません。ですがこの批判を留意なく二次元表現に適用するのは、男／女の差異のみに焦点を当てることによって、二次元と三次元の違いを完全に無視することです。言い換えれば、二元論的な性的差異を根源的なものとみなすことによって、アニメーティヴな誤配による攪乱の可能性を抹消してしまっているのです。

このような周縁化はトランスフォビアとも結びついています。たとえばトランスフォビックな言説のなかには、美少女アニメのせいで男性がオートガイネフィリアになるというものがあります[30]。同じようなものとして、やおいファンはゲイ男性をフェティッシュ化することによってトランス男性になる、という言説があります（Aburime 2024）。これらはいずれも TERF がトランスジェンダーを攻撃する際に、同じレトリックで二次元のコンテンツやその愛好者を排除するものです[31]。次節で論じるように、このような結びつきは単なる偶然の一致ではなく、両者は理論的にも同じ構造に根差しています。

3.2　否定－性科学

このことを考えるうえで示唆に富むのが、バトラーとプレシアドです。バトラーは「ある種のジェンダー化された表現を誤りとか派生的とみなし、べつのものは本物だとか起源とみなす」制度や慣習を批判し（Butler 1999=2000：66）、その一環として、ブッチ／フェムやドラァグをジェンダー規範や異性愛の再生産とみなす批判や、ゲイ男性が女性性を流用する実践を女性性の簒奪とみなす批判に反論しました（Butler 1990=1999：217-9）。

この立場を引き継いで、ディルドをペニスやファルスと同一視する発想を批判したのがプレシアドです。プレシアドは、ディルドを非難するレズビアン分離派やトランスフォビックなフェミニストに対して、「否定－性科学」（Preciado 2018=2022：100）すなわちファルス中心的な還元主義に陥っていると反論しました。この否定－性科学は、まさにフィクトセクシュアルを周縁化するものです。

> 精神分析の言葉に執着するあまり、レズビアンとトランスセックスに関するほとんどのフェミニズムとクィアの解釈は、ディルドをファルスとの関係の彼方で理解することを妨げられてきた。（……）性テクノロジーとしてのディルドは（……）身体の性的可塑性の操作子であり、身体の輪郭やアイデンティティを義体的に作り替えていく可能性の操作子である。（Preciado 2018=2022：91-2 強調引用者）

架空の創作物や二次元キャラクターなど、フィクトセクシュアルの欲望対象は、まさにプレシアドが言及するディルドと同じ特徴を有しています。それは技術的人工物として、私たちの身体や性的対象や万物や世界に作用する操作子です。しかしファルス中心的な還元主義は、万物の微細な差異、たとえば人間と非人間や、自然物と人工物などのさまざまな差異、あるいは技術のなかでの差異の伸縮性や複雑性や調整可能性を抹消するものです。かれらは「二元的な

性的差異」を人間にとって不変の根源的差異とみなすだけでなく、あらゆるものをこの根源的差異の一部へと還元し、人間のセックス化された身体だけが唯一の根源的な欲望対象となりうると規定し、その狭小な色眼鏡を通してしか世界を見ることができないのです。

同じような問題は、テレビアニメ『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG』でも見られます。第８話「素食の晩餐 FAKE FOOD」と題されたエピソードでは、台湾仏教の素食料理（台湾素食）についての質問が投げかけられていますが、登場人物のバトーとトグサの会話では、本質主義的な回答が提示されるのみでした。

> バトー「（中略）［台湾素食が］日本の精進料理と違うところは、素材をそのまま調理せず、豆やキノコの類を細工して、肉や魚を再現しているところにある。（中略）」
> トグサ「（中略）でもさ、なぜ台湾の坊さんは、そんな面倒な料理法を思いついたんだ。初めから肉の味を知らなきゃ、そんな必要ないわけだろ」
> バトー「そりゃそうさ。だがな、誰だって仏門に入る前は何でも食えるんだ。いくら修行の身でもその頃の記憶を消すことはできねえよ」

バトーの答えは、日本仏教諸宗の精進料理とは異なる歴史や文脈、すなわち斎教や人間仏教の素食料理が（帰依した在家の居士や俗衆だけでなく）最初に世俗社会に向けて広まったという歴史や、漢語圏での素肉工業の「養生」「健康」「栄養」といった言説や技術における位置づけ、および近年生じた素肉工業の変化や衰退を、脱文脈化するものです。バトーは、台湾の「素肉」が「肉」とは独立した「料理」として存在するということを抹消しています。その結果、素肉料理が単なる肉料理の代替品であるだけでなく、誰もが楽しむことができる「料理」であるという事実を無視しています。これによって、単に素肉を好む「素肉愛好者」の存在が抹消されています。言い換えれば、バトーは食欲の指向＝見当識を規定し、食物の存在論を規定したのです。そこでは、食欲は「肉」に向かわなければならず、決して「素肉」に向かってはならない、そして「素肉」は単なる「肉の再現」でしかないとされています。フィクトセクシュアルに対する差別や周縁化は、まさにこれと同じような象徴的暴力なのです。

3.3　対人性愛中心主義とヒューマノジェンダリズム

このようなフィクトセクシュアルの周縁化を説明するための理論として、松浦（2022a, 2022b）はバトラーの「字義どおり化という幻想」に注目しました。これは「解剖学的」なセックスと、「自然なアイデンティティ」としてのジェンダーと、「自然な欲望」としての異性愛が必然的に結びついているという思い込みのことです（Butler 1990=1999：135）。言い換えれば、ジェンダーに関する二元論的な生物学的本質主義と異性愛規範が結びついているという図式です。

とはいえ、性的な対人関係が規範的なものとされることによる問題は、この図式では説明しきれません。そこで対人性愛中心主義という概念が必要になります。そして松浦は、エラ・プ

ジビウォの言う「セックス＝異性間性交＝性器的交接という幻想（the phantasm of sex=heterosex=coitus）」（Przybylo 2011）という図式をバトラーの図式と組み合わせることによって、対人性愛中心主義が性差別や異性愛規範と結びついていることを示しました。すなわち、性別二元論と対人性愛中心主義が結びつくことによって、異性愛規範が構成されるのです。

さらにフィクトセクシュアルの視座からは、セクシュアリティに関する規範だけでなくジェンダーに関する規範についても、新たな問題提起がなされています。それが、正当なジェンダーは生物種としての人間によって実体化されるものだという考え方を表す、ヒューマノジェンダリズム[32]です。

これはシスジェンダリズムにならった造語で、バラッド的な意味での「表象主義」（Barad 2007=2023）の一例です。シスジェンダリズムは、シスジェンダーの身体を「より物質的」に「正当」なものとみなし、トランスジェンダーの身体を「フェイク」とみなす、「物質的なものの位階秩序」です（藤高 2023：34-5）。これに対してヒューマノジェンダリズムは、ジェンダーを持つ存在は人間だけであり、人間以外の存在がジェンダー化されるとしても、それはあくまで人間のジェンダーを指し示す表象なのだという発想です。つまりヒューマノジェンダリズムにおいても、ジェンダーを担う存在の物質性が無意味化されてしまうのです。

ヒューマノジェンダリズムは、「字義どおりの」ジェンダーは人間の身体のものであるという価値観であり、ある種の「生物学的」本質主義です。言い換えれば、ジェンダーが人間の身体以外のものへと「誤配」されることを阻害することによって、ジェンダーを人間の「解剖学的」な身体へと縛り付けるものです。この意味で、ヒューマノジェンダリズムは対人性愛中心主義とあわせて、性別二元論と異性愛規範の結びつきを強化するものです。すなわち、ヒューマノジェンダリズムもまた対人性愛中心主義と同じく「〈字義どおり化〉という幻想」の構成要素なのです。このことを図にすると以下のようになります。

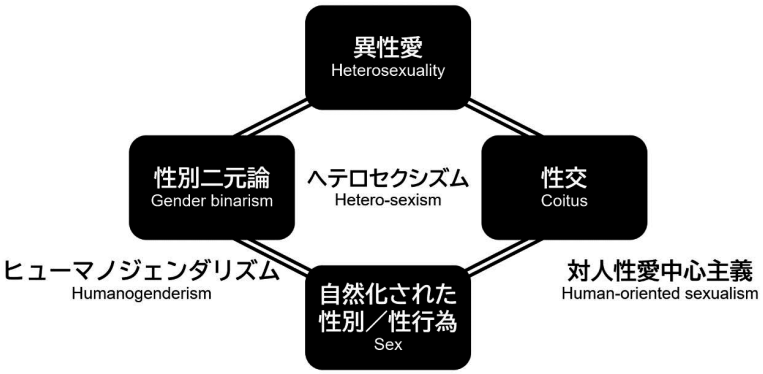

図 「〈字義どおり化〉という幻想」としてのジェンダー／セクシュアリティ・スクエア

従来の議論では二次元の性的創作物が人間の女性や未成年を性化（セクシュアライズ）するものと非難されて

いました。しかしそこでは人間を性的に欲望する文化が支配的だからこそ、二次元の性的創作物によって性化（セクシュアリゼーション）が助長されるという現象が可能になるのではないか、と問われることは決してありませんでした。また二次元の女性／男性キャラクターが生身の人間に関するジェンダー規範を再生産するという批判もありましたが、そこでも、二次元の女性キャラクターが人間の女性と「同じ」女性であるという状況が成立可能となるための前提には批判が向けられてきませんでした。このようなバイアスの存在は、対人性愛中心主義やヒューマノジェンダリズムがいかに根強いものかを示しています。

すでに見たように、「字義どおり化という幻想」が根強い社会のなかで、フィクトセクシュアルは周縁化されてきました。そして「字義どおり化という幻想」は、性差別、異性愛規範、シスジェンダリズム、強制的性愛とも結びついています。それゆえ、フェミニズムやLGBTQの運動は対人性愛中心主義やヒューマノジェンダリズムの問題にも目を向けなければなりません。そして同時に、フィクトセクシュアルのクィア運動に従事する人は必ずフェミニストでなければならないのです。

4　結論――非－人間指向的な世界化の方法

フィクトセクシュアルの視座とフィクトセクシュアルの生き方は、フィクトセクシュアル自身のものであるだけでなく、より広く共有することもできるものです。フィクトセクシュアルの人々は、フィクトセクシュアルの視座によって、世界のなかで自分の道を切り開く再帰性を獲得し、非－人間との関係を探求し、不安や不快や苦しみや混乱といった感情を和らげることができるようになります。またフィクトセクシュアルのアライである対人性愛者にとって、フィクトセクシュアルの視座は、身体、感情、欲望、性的対象、関係の可塑性を暴き出し、人間以上（モア・ザン・ヒューマン）の世界、人間以外（アザー・ザン・ヒューマン）の世界を再構築することに役立つでしょう。それはクィアな世界制作の取り組みにとって不可欠なものです。

また英語圏のアセクシュアル・コミュニティが提示した視座は、フィクトセクシュアルは単なるアジア的な奇特な性の一形態であるというステレオタイプ（あるいはオリエンタリズム）を問い直し、フィクトセクシュアルを真剣にとらえることを可能にするうえで、重要な示唆をもたらすものです。それと同時にフィクトセクシュアルは、A-specの外側での活動として、「非対人性愛の運動」の力学を通して独自の生を築き上げてもいます。「非対人性愛」は包括的な用語として、A-specとつながるだけでなく、対物性愛（Marsh 2010）、人形愛（関根 2018；Kubes 2019；Karaian 2024）、動物性愛（Rudy 2012；濱野 2019）、フェティシズム（McCallum 1998；田中 2009）、エコセクシュアリティ（Sprinkle, Stephens, and Klein 2021）、スペクトロセクシュアリティ（Spectrosexuality）などにも接続されるものです。またフィクトセクシュアルの視座は、オタク、やおい、百合、夢、ファーリーやケモナー、ドールといったサブカルチャーやカウンターカルチャーなど、非－人間を取り巻く世界のセクシュアリティを再発見することにも

つながるでしょう。

本稿では、トランスジェンダーやフィクトセクシュアルを周縁化するのみならず、世界や他者をより壮大なスケールで想像するための方法を制約しているものとして、「〈字義どおり化〉という幻想」があるということを明らかにしました。対人性愛中心主義やヒューマノジェンダリズムへの批判を通じて、新しい世界を再想像する運動に貢献しようとすることによって、私たちはさまざまな性的マイノリティとつながり、フェミニズム、クィア、LGBT +、障害者、ニューロクィアなどの運動に参加することができます[33]。このようにして世界を再想像する方法は、「非－人間指向的な世界化への道」（non-human-oriented ways of worlding）と呼べるものです。この道の途上において、人間と非－人間は互いにもつれ合うものです。そこに見出されるのは、もはや対人性愛中心主義のメタファーとしての陳腐なピグマリオン神話ではなく、むしろ新しいアニミズムやハラウェイの言う「クトゥルー新世」（Haraway 2015=2017）であり、共－構成され、共生し、共進化する新たな「種」と新たな「伴侶的タガい」なのです。

> 空想的－準－反再現的なもの（fantastic-qua-antirepresentational）の領域においてリアリズム的表象（realist representation）を探す（……）ような、我々の通常の人間主義的な用語で「類似性」の問題を問うことは、やや的外れである。あるいは言い方を変えよう。「リアリズム的な類似」の主張は、我々がここで関心を寄せている問題について、なんら新しく興味深い仕方で分析的に問うものではない。キャラクターとは何か。キャラクターは何を欲望するのか。キャラクターはどのようにしてメディアに住まい、メディアに取りつくのか。キャラクターになることの条件と効果とは何か。人間中心主義の背景に対して、我々はキャラクター中心的リアリズムを提案してもよいだろう。それは前者を拒絶するものではないが、一般的な人間中心的な思考を混乱させる（ディスオリエント）ための、そして人間と非－人間の両方を調査する場を対称化するための、代替案として現れる見方である。（Nozawa 2013 強調原文）

注

11）「二次元」は「三次元」を相対化することによって生み出されたものであり、空間的概念を隠喩的に用いているものですが、実際には（本文で後述する）オルタナティブな想像的環境を表すものです。二次元／三次元は「現実／虚構」の区別として理解されることがありますが、そのような理解は正確ではありません。松浦（2022a：64）は、「現実か虚構か」をめぐる議論にみられる混乱を整理するうえで、「①存在論的差異（二次元／三次元）、②存在感、③表現論、④内容の事実性、⑤欲望や感情の真正性」という５つの論点を区別しています。

12）英語圏のフィクトセクシュアル・コミュニティでは、アセクシュアル・スペクトラムと同

じく、さまざまな欲望や関係性や物質性を理解するための概念として「フィクト - アンブレラ」が生み出されています。しかし英語圏のコミュニティの外でも、フィクトセクシュアリティは文化的な脱文脈化と再文脈化を経てきました。たとえばフィクトセクシュアルという言葉は、日本における「二次コン」「キャラクター性愛」「二次元性愛」という既存の用語や、漢語圏における「紙性戀」という用語と接続されています。

13）ただし、架空のキャラクターは人間ではないという考え方は、日本や台湾に固有のものではありません。たとえば西洋の形而上学にも、架空のキャラクターは抽象的人工物であるという立場があります（Thomasson 1999）。

14）このような観点からの斎藤批判はラマール（Lamarre 2009=2013：319-22）を参照。

15）多重見当識とは、「二重見当識」というカール・ヤスパースの現象学的精神病理学の用語を借用した、斎藤による造語です。斎藤（2000）の用法では、以下の２つの意味が統合されています。ひとつは、ヤスパースがもともと使っていた「現実や世界についての認識」で、世界の中で自分を位置づける能力のことです。そしてもうひとつが、性的指向（sexual orientation）を表す「欲望の方向づけ」です。

16）シルヴィオは、マックス・ウェーバーが言う「脱魔術化」という「資本主義の脱－アニメーティング戦略（the de-animating strategies of capitalism）」に対して、アニメーション・パラダイムが「私たちはどのようにして世界に再び生気を吹き込みうるか」を示唆していると述べ、それを「アニメーションの政治」と呼んでいます（Silvio 2019：41）。

17）この点については松浦（2024b）も参照。

18）ここで言う「非世界的」は、東浩紀『存在論的、郵便的』におけるラカン的な現実界概念を批判する箇所に由来します。また「世界化」は、デスコラが４つの存在論を “ways of worlding” と呼んだことに由来します。つまり「非世界的な万物を世界化」するという表現は、「アニメーション的な誤配による攪乱」について存在論的転回を通した解釈を提示するものだと言えます。

19）たとえば松浦が修士論文でインタビューした女性は、「（『テニスの王子様』の）跡部景吾はあんなに流行ったのに、跡部景吾みたいな男性いる？って言ったら、いないじゃないですか（笑）……いたら嫌ですよ（笑）」と語っていました（調査は2019年10月６日に実施）。

20）カーフラーティとヴァリザロは、フィクトセクシュアルとフィクトロマンティックを総称して「フィクトフィリア」と表現していますが、「〇〇フィリア」という接頭辞は「パラフィリア」という病理学的なニュアンスが根強いため、ここでは「フィクトフィリア」という言葉を避けています。

21）伊藤剛（2008）の「萌えフォビア」論は、対人性愛中心主義のもとで生じる「否認」のメカニズムに関する先駆的な議論として位置づけることができます。より理論的な考察は、松浦（2022b：151-2）や、廖の下記の講演記録で言及されている「移行対象の否認」を参照してください。廖希文，2024，「『戦闘美少女の精神分析』を読む１：虚構それ自体に性

的対象を見い出すことができる人」(2024年５月９日取得，https://kifumiliao.hatenablog.com/entry/2024/04/27/013105)

22）この意味で、対人性愛中心主義のもとでのフィクトセクシュアルの周縁化は、ミランダ・フリッカー（2007＝2023）の言う解釈的不正義でもあります。

23）存在論的荷物は、批判的実在論の文脈に由来する概念で、社会科学で使用される概念（たとえば構造、エイジェンシー、関係など）に内在する「存在論の前提」を指すものです。「荷物」という言葉を使うのは、それが研究者の再帰性を通じて調整可能なツールキットであるためです。つまりこの「荷物」は、世界を精巧に把握するための資源となるのです（したがって、これは認識論の問題ではありません)。しかし再帰性のもとでは、研究者にかぎらず誰もが自分自身の社会的世界のフィールドワーカーであるため、廖はここでこの言葉をより広い意味で使っています。

24）これはハラウェイの『伴侶種宣言』の用語ですが、訳語は逆巻しとね（2024）を参考にしました。

25)「解釈労働（interpretive labor)」および後に言及する「想像的労働（imaginative labor)」は、デヴィッド・グレーバーの『官僚制のユートピア』に由来する言葉です。「解釈労働」は、「社会生活の日常的関心毎の多数が、他者の動機や感覚を解読する努力からなっている。それをここでは「解釈労働（interpretive labor)」と呼んでみよう」(Graeber 2015=2017：94)と定義されています。さらに廖は、この用語を林（2017）の文脈で用いています。林はこの概念を用いて、トランスジェンダーが規範的枠組みを理解したり、自らの経験を探求したりしつつ、他者に自身の経験を説明するための言語を創造するための労働について記述しています。

26)「対物倫理（ethica ad rem)」は、橋本（2001）に由来する言葉ですが、ここでは「モノを目的とする倫理」という、より広範な意味でこの用語を使用しています。廖は、フィクトセクシュアルが直面する「自分の愛するモノをどのように扱うべきか」という問題を、このカテゴリーに組み込み、フィクトセクシュアル・コミュニティにおいてその議論を促進しようとしています。廖のアイデアについては、下記の記事も参照。廖希文，2024,「ヒト－モノ関係性における概念細分と対物倫理」(2024年５月９日取得，https://kifumiliao.hatenablog.com/entry/2024/04/08/225910)

27）徐（2024）の研究は、現在審査中の修士論文としてのファーリー・エスノグラフィーの一部であり、「ファーリーセクシュアリティ」という言葉には直接言及されていません。しかし、廖は徐とともに徐のフィールドに参与した際、ある研究協力者が「自分はFurry-Bisexualである」と語りました。その後、廖と徐はこの主題について議論しました。廖は徐の修士論文の草案を読んでおり、そのなかに「Furrysexuality」についての節があります。この節では、先ほどの研究協力者が実際には「Furrysexual」という言葉を使いがちなのだが、他人に対して理解しやすい用語として「Furry-Bisexual」を使っていたと述べています。その

後、徐は台湾のフィールドで、その研究協力者に限らず、「Furrysexual」というアイデンティティがある程度共有されていることを発見しました。

28）偽娘は、英語圏での「クロス・ドレッシング」に似た言葉ですが、漢語圏の文脈で作られた用語であり、また日本語の「男の娘」からある程度の影響を受けているものです。この言葉は二次元と三次元ではまったく異なる存在を指しており、ここでの議論は三次元についてのものです（二次元の文脈では「男の娘」とほぼ同じ意味です）。さらに台湾では、「偽娘」という言葉はトランス・コミュニティ内での象徴闘争に多少関わっており、コミュニティのなかの特定のグループだとみなされています。

29）ここで言う「自然主義」には、表現様式としての「自然主義」だけでなく、フィリップ・デスコラの言う存在論としての「ナチュラリズム」も読み込むことができます。

30）この点については以下の記事も参照。松浦優，2023,「英語圏における「美少女アニメのせいでトランスジェンダーになる」言説の事例メモ」（2024年２月４日取得，https://mtwrmtwr.hatenablog.com/entry/2023/12/08/211602）

31）廖は台湾のフェミニスト書店兼サロンの「女書店」（Fembooks）で２度の講演会を開催した後、ソーシャルメディア上で一部のTERF集団からの攻撃に直面しました。この攻撃は、部分的には廖がノンバイナリーであることにも起因するものですが、フィクトセクシュアルや対物性愛に向けられたものであり、そこではトランスジェンダーを標的にする際の言説戦略も用いられていました。この事例は、非対人性愛もまたグローバルなアンチ・ジェンダーの政治学によって脅かされていることを浮き彫りにしています。

32）ヒューマノジェンダリズム概念の初出は松浦（2024a）です。

33）松浦（2023b）の講演では、廖が対談者としてディスカッションに参加しました。廖は、台湾における2003年と2013年の２回の動物性愛論争に言及し、非対人性愛の視座からこれらの歴史を再考することが意味を持つ可能性を提起しました。同時に、廖は非対人性愛における障害が単に脱スティグマ化の対象としてだけではなく、ニューロダイバーシティの可能性も見出せるかもしれないと述べました。それに対して、松浦は対人性愛中心主義批判がニューロクィア運動と連帯する可能性はあるとコメントしました。

補論　「フィクトセクシュアル支持的空間」には何が必要か

1　導入

本稿の着想は、台大オタ研での読書会で松浦優のブログ記事「対人性愛中心主義とシスジェンダー中心主義の共通点：『萌え絵広告問題』と『トランスジェンダーのトイレ使用問題』から」（松浦 2022c）を読んだことに端を発する。私たちはこの記事で指摘された現象を「排除の論理」と呼ぶことにした。これは、「〇〇の人々のための空間を保護するために、××の人々はここに存在してはならない」という、隔離や強制収容のような論理である。これに対するオルタナティブな論理として、私たちは、「集散の論理」というアプローチを提案した。これは、たとえば台湾での性的マイノリティ運動の初期においてゲイが集った公園や、NPO の地下室でのトランスジェンダー／ノンバイナリーの会などのような、夜に都市の片隅で密かに集うための空間であり、「このような形式の空間を支点として、××の人々が生きるための隠れたネットワークを広げる」というアプローチである。このアプローチは、離散状態を一時的に打破し、互いに接点をつくることによって社会変革のエネルギーを蓄積するものである。

もちろん、「排除の論理」と「集散の論理」は相互排他的ではない。多くの場合、集散の論理は排除の論理に対抗する手段になりうる。たとえば、党国体制期の台湾での戒厳令の際、書店のカウンターの下にある秘密の引き出しは、左翼的な禁書を隠す場として機能していた。しかし他方で、集散の論理にもとづく空間を構築したとしても、「××の人は××の空間に行け」という結果になる可能性があり、排除の論理に逆戻りすることもある。したがって、集散の論理が成り立つかどうかは、権力関係のなかでのさまざまな戦略や戦術に左右される。この２つの論理は、フィクトセクシュアルや他のセクシュアル・マイノリティの問題であるだけでなく、トランスジェンダー、障害、人種、移民、宗教、階級などのさまざまな問題にも適用できるものである。

このような議論をきっかけに、フィクトセクシュアルにとっての集散の論理にもとづく空間を形成するには何が必要かを考察することになった。本稿を最初にウェブ上で公開した際には、分かりやすくするために「フレンドリー」という言葉を使ったが、本稿のバージョンでは「支持的」（supportive）という言葉を用いることにした。なぜなら、「××の人にフレンドリー」という表現は通常は排除の論理を前提としており、また「寛容」[34] を美徳としているため、私たちの考察にとって適切ではないからである。「集散の論理にもとづく空間」は、単に「ここでは××の人々を追い出さない」というだけでなく、××の人々に承認、庇護、出会いの場を提供できるものであり、××の人々にとって最低限の生存基盤となり、社会運動の支点となるもの

である。

2 「抹消」と「驚き」による空間戦略・戦術

現象学的社会学の観点から言えば、抹消は「非類型化をともなう周縁化」である（松浦 2023a）。非類型化とは、ある問題や主題を別の問題や主題によって「隠蔽」することを意味し、非類型化の結果として、ある存在が「類型化されていない」ものとなる（松浦 2023a）。これは異端化のような「過度な類型化」[35] とは異なるが、別の主題を「過度に類型化」することによって、ある主題を非類型化させることがありうる。その一例が、「性犯罪者」という過度な類型化を押しつけることによって、「トイレを使用する必要のあるトランスジェンダー」を非類型化するというトランスフォビアである。同様の例として、「ミソジニー」という類型化を押しつけることによって、「萌え表象としての非人間キャラクター」と「フィクトセクシュアル」を非類型化する、萌えフォビア[36] を挙げることもできる。さらに異性愛マトリックスも、「異性／同性」という類型を前景化することによって、トランスジェンダーやノンバイナリーや非対人性愛などの主題を非類型化するものだと言える。このような差別的戦術としての抹消は、研究が少なくあまり注目されていない側面だが、しかし社会で実際に発生しているものである。

このようなセクシュアリティの過度な類型化は、空間の生産を介して物質化される。婚姻の装置からセクシュアリティの装置への系譜学によれば、権力関係は家族を支点にしつつ、公共空間を性的でない空間として概念化してきた。そして公共空間の外側に排除され、私的空間に残るものには、生産力の再生産だけでなく、健康的で規範的な欲望や、性的快楽、親密さも含まれる（Foucault 1976=1986；Berlant & Warner 1998）。

しかしこの物質化には、古典的論点としての公私二元論だけでなく、ホモソーシャルな絆も含まれる。「異性／同性」という類型が物質化されるプロセスには、異性愛マトリックスだけでなくホモソーシャルも関与しているのである。現代では、ホモソーシャルは安全で純粋で快適な社会的空間だと想定されており、異質で場違いな存在を排除し、異質なものとみなされない他者を抹消する場となっている。現代におけるトイレをめぐる規範は、そのような排除と抹消の戦略の一環として、あたかも古代における皇帝と宦官の秩序をアブジェクションとして再演しているかのようである。ただし当時の婚姻の装置とは異なり、現在ではそれはセクシュアリティの装置の一部である。

> ［引用者注：抹消された］「（非）主体［（un）subject］」とは、社会空間の参加者としての資格をもたない存在なのである。（大貫2014：86）

非類型化された存在は、社会空間の隙間としての例外的空間で生き延びてきた。そこはいわゆる「第三空間」（Bhaba 1994=2005）または「無縁所」（網野 1996）としての権力と抵抗[37] の

空間である[38]。この空間は保護されていないため、危険に満ちているが、同時に可能性も秘めている。ここには固定された秩序はなく、一時的な協議が存在している。このような空間は、「クィアな対抗的公共性」（Berlant and Warner 1998）を形成する可能性があり、言い換えれば「集散の論理にもとづく空間」になりうるのである。その基盤は同一性（アイデンティティ）ではなく親和性（アフィニティ）である。そのような空間が社会運動で形成されると、ハラウェイの言うような「サイボーグ」の町――政治的な化学作用の「アフィニティ・グループ」（Haraway 1991=2000：297）になる。それは固定された手続に依存しない、政治的「実験」を通して成立するものなのである（Foucault 1997=2002：268）。

脱－抹消化の戦術、すなわち「驚き」[39]とは、ある「意味領域」から別の意味領域への「飛躍」であり、「目覚め」という経験をもたらすことによって隠蔽を解除するものである（Schutz 1970=1996：156；松浦2023a：170）。その具体的な戦術には、単純に相手に伝わるよう翻訳するという実践だけでなく、「ハイブリッドな対象の創造」も含まれうる。ハイブリッドな対象は、複数の現実＝限定的な意味領域の間に位置し、異なる現実の間をつなぎ、異なる現実の間を飛躍するための橋や乗り物として作用し、多重的な意味と感情を宿す結晶である（Cermolacce et al. 2018）[40]。ハイブリッドな対象を創造することは、「驚き」の可能性を創造することであり、そのような「創造、知覚、相互作用の行為」[41]を通じて、支配的な「至高の現実」に対する占拠運動となりうる。ハイブリッドな対象によって、多重見当識を拡散・維持し、オルタナティブな現実の安定性を確保することができる。言い換えれば、それは抹消に対抗し、抹消された存在を見つけるのに役立つのである。私たちは空間にハイブリッドな対象を配置するか、空間自体をハイブリッドな対象にする必要がある。これが抹消に対抗する私たちの戦略の一部となるのである。

3　フィクトセクシュアルの概略的記述

フィクトセクシュアルの空間を想像するためには、フィクトセクシュアルの生活経験に関する一定の理解が必要である。したがって、ここでは筆者のフィールドワーク[42]で観察された主題について、概略的な記述を行う。以下ではフィクトセクシュアルの生活経験に関する４つの主題を描出するが、これらの主題はフィクトセクシュアルの生活経験を網羅しているわけではなく、またこれらの主題が互いに排他的であるわけでもない。フィクトセクシュアルの人々のなかには、これらの主題のうちの１つにしか関与していない人もいれば、複数の主題に関与している場合もある。

①表現に関する主題：架空の表現（性的な表現、萌え表現、関係性の表現など）を通じて様々な感覚、情動、意識変化を感じること。例えばエーゴセクシュアルのように。

②伴侶に関する主題：単一または複数のキャラクターと性的／恋愛的／結婚などのパート

ナーシップを築き、様々な実践を通じてその関係性を維持すること。

③アニミズムに関する主題：想像力や創造力を通じて、または（パソコン、図像、人形などの）キャラクターを物質化した化身[43]を用いて、キャラクターと交流したり対話したり相互作用したりすること。

④特定のつながりに関する主題：他者としてのキャラクターと自己との間で特定の関係性を感じ、維持すること。たとえば「うちの子」や「アバター」などの実践があるほか，より複雑なケースではある種の「アザーキン（otherkin）」として、「オタクキン（otakukin）」または「フィクトキン（fictokin）」などが含まれる。

これらの主題は、フィクトセクシュアルの生活経験を捉えようとする試みの一環であり、あくまで方法論的理念型である。フィクトセクシュアルの人々の実際の生には、こうした主題とぴったり一致しない営みがありうる。たとえば、フィクトセクシュアルは特定のサブカルチャーとの関連性のなかで、異なる実践を持つことがありうる。

次に、フィクトセクシュアルにとっての不安について、５つの主題を取り上げる。こちらも網羅的なものではなく、１つの主題にしか関与しない人も、複数の主題に関与する人もいる。また、フィクトセクシュアルのなかにはそれぞれ異なる段階がある可能性がある。たとえば、ある主題についてまだ探索の初期段階にある人もいれば、既にさまざまな方法で「克服」してきた人もおり、あるいははじめから特定の主題を問題と感じていない人もいるかもしれない。

①次元の壁に関する主題：次元の壁を維持したいと同時に、その壁の向こう側に「旅行」したいという、ある意味「二重の願望」がある（Nozawa 2013）。一部のフィクトセクシュアルにとっては、これは不安の源ではなく、むしろ次元の壁に積極的な価値を見出すこともある（松浦 2023b）。

②相互作用に関する主題：キャラクターと人間で相互作用のやり方が異なるということに起因する、キャラクターとの相互作用手段の不足。たとえば、キャラクターの感覚や意志を証明する方法が不足している場合がある。また、人間の存在感がキャラクターよりも強いことによって、キャラクターの存在感が抑圧されていると感じることもある。

③物質性に関する主題：キャラクターが特定の物質にどのように投錨（アンカー）されるかという問題。いわゆる「キャラ崩壊」の基準は人によって異なり、キャラクターの拡張に対する許容度も人によって差がある。これはキャラクターの所有権、キャラクターの死と喪失、キャラクターの「後事」など、対物倫理の問題も関係する。

④同担に関する主題：自分の愛好するキャラクターが同担（簡単に言えば、同じキャラクターを好きな人々）に否定される恐れ、または同担の人々の行動によって不快感を抱くこと。

⑤クローゼットに関する主題：これは対人性愛との差異化に関する問題である。これには

否認や孤立や自己不信などの経験、カミングアウトの圧力、解釈労働にかかる大きな精神的負荷、および社会的リスクの評価が含まれる。

これらの不安に関する主題は、対人性愛中心主義に根差したものや、人間中心主義などの規範的な認識論や存在論の問題に関わるものがあるが、本稿ではこれらの問題には触れない。また、上記の主題がフィクトセクシュアルの定義や教条ではなく、あくまでフィクトセクシュアルの人々に起こりうる問題を把握したり、問題に対処する手がかりを見つけたりするための、発見的ツールである点に注意してほしい。

4　フィクトセクシュアル支持的空間には何が必要か

筆者は「フィクトセクシュアル支持的空間」について、研究協力者や友人に対してごく簡略的な調査を行いつつ、いくつかの試論的な提案を構想した。言うまでもなく、フィクトセクシュアル・コミュニティ自体が複雑で、そのなかでも人によって異なる要望がある。そのため以下に示す提案は、「フィクトセクシュアル支持的空間」の標準的な答えというわけではなく、あくまで一例としての草案である。また、以下の提案は、空間の性質や運営方法に応じて、多かれ少なかれ調整が必要になるだろう。最初に私たちが考えていたのは、レストランやバーや集会所などを想定したものだったが、「フィクトセクシュアル支持的空間」はプライドパレードや抗議活動などの公共空間、芸術や展覧会場、結婚式場、病院、心理治療施設などでも設定される可能性がある。以下の提案は、これらの空間が私有された場か、営利的な場か、公共的な場か、あるいはその地域の法規制にどのように適合するかに応じて調整する必要がある。

①カミングアウトを許容し、個人情報が漏洩しないよう保護する

これはほとんどの性的マイノリティ・コミュニティにおいて標準的な方針である。性的マイノリティの情報が意図せず漏洩することは、カミングアウトしていない人々にとって、家庭や職場、学校、地域で大きな影響を及ぼす可能性や、メディアや公衆の好奇な目線を引き寄せてしまう可能性があり、それによって差別や精神的ストレスや社会生活での困難が生じることがある。ただし、これは空間の性質に依存する場合もある。たとえば公共的な場では情報の保護がほとんど不可能であるため、そうした場で活動を行うときには、主催者は事前に情報保護ができないことを明言する必要があるかもしれない。

営利的な場や私有された場であれば、情報の保護は比較的容易であり、たとえば録画や録音を禁止するなど、その場にいる人に対してプライバシーを尊重するよう伝えることができる。ただし単に録音・録画の禁止を宣言するだけでは、盗撮や盗聴などを防ぎきれないかもしれない。情報の保護をさらに向上させるには、盗聴や盗撮の対策装置を使用するという選択肢も排除できないが、技術の進化に伴って盗聴や盗撮に対する対策がますます困難になっているため、

情報の保護手段を常に更新する必要がある。たとえば、インターネットを遮断する小部屋や仕切りを用意するといった方法も考えられる。

また、考慮すべき重要な要素には、こうした空間の所在を公表する必要があるかどうか、メンバー名簿を作成するかどうか、本名を使用するようにするか、メンバー情報をどの程度収集するか、情報セキュリティをどうするか、などが含まれる。たとえば、一部の性的マイノリティ・コミュニティでは、空間の所在を公表しない選択をする場合、代わりに「仲介者」の制度を採用し、仲介者を通じて記者やトラブルメーカーなどの不適切な人々を排除するという方法がある。さらに、メディアや警察、医療機関、公共機関、あるいはNPOなどとどのような関係と距離を保つべきかについても、その地域の政治的状況に応じて考慮すべき重要な事項である。

②他人が知覚しない存在との対話や相互行為を許容し、保護する

筆者が行ったごく小規模な予備的調査[44]では、驚いたことに、筆者の予想よりも多くの人（11人）が「他人の知覚しない存在との対話や相互行為を保護することが最も重要である」と考えていた。前述のとおり、このような非規範的相互行為がフィクトセクシュアルにとって重要な実践であることが指摘されていたが、この数と割合は筆者の予想をはるかに上回っていた。社会の一般的規範から考えると、このような非規範的相互行為は規範的社会空間では非常に異質に見え、トラブルを引き起こし、空間から追い出される可能性すらある。こうした前提を考えると、この要望は大いに理解できるものだと考えられる。

以前の拙論によれば、この「他人が知覚しない」には「精神的に共有できない」ことと「物質的に共有できない」ことが含まれる（廖 2024）。前者は、人形やぬいぐるみ、指人形、図像などの物質化された存在と対話するというものであり、後者は精神医学的には幻視や幻聴や幻触に分類されるような方法での交流である[45]。ただしすべてのフィクトセクシュアルがこのような非規範的相互行為をしているわけではなく、またこのような非規範的相互行為をするフィクトセクシュアルのなかにもさまざまな交流方法がある。

フィクトセクシュアル支持的空間は、このようなアニミズムあるいはスピリチュアルな相互行為を保護したうえで、空間、存在、相互行為の秩序を再調整するための協議やグランドルールの宣言をする必要がある。その空間では、フィクトセクシュアルを「変わり者」「異常」「気違い」「厄介」「邪魔」として見るべきではなく、また「共有できない存在」を「存在しない」とみなすべきではなく、個々のフィクトセクシュアルの特異性を理解し、神経多様性（ニューロダイバーシティ）にもとづいて空間を構築するべきである。私たちの社会では「神経典型的（ニューロティピカル）」な規範や相互行為規則に従うことを強制されるため、このような空間を構築することは非常に難しかもしれない。それでもフィクトセクシュアル支持的空間は探究すべき課題である。

③特定の物質的存在が現れることを許容し、保護する

フィクトセクシュアルの人々のなかには、人形やぬいぐるみなどの物質的存在を、キャラクターの具現化や化身として使用する人がいる。使われるものも人それぞれであり、こうした化身は10センチメートル未満のものから等身大のものまでさまざまであり、場合によっては数十キログラムのものもある。そのため、こうした化身をケアするには多くの労力が必要であり、損傷を避けるだけでなく、他人の粗野な扱いからも守る必要がある。また、交通や移動に関しても大きな困難をともなう場合がある。予約が必要なレストラン、展示スペース、または公共交通機関では、通常は事前の連絡やコミュニケーションが必要であり、場合によっては追加の席料やチケットの購入が必要となる。ときには運営者から、対応が難しいとか「一般の観客に不快感を与える」という理由で拒否されることもある。また、許可された場合でも、異常視されることは避けがたい。

それゆえ、フィクトセクシュアル支持的空間は、こうした化身が存在してよいということを協議し、宣言し、異常視から保護する必要がある。入場料や座席料金、チケットについては、その空間の主催者が個別に調整できる問題である。さらに、キャラクターや化身を冒涜されたと感じるかどうかの基準は、フィクトセクシュアルのなかでも人によって異なる。そのため、これらの化身を「荷物」または「貨物」として扱うべきなのか、また他人はこれらの化身とどのように相互行為するべきかについて、個別のフィクトセクシュアルと直接コミュニケーションを取ることが最も望ましい。

最後に、一部の性的マイノリティのコミュニティは、レンタル収納スペースを提供するといった形で、貧しい性的マイノリティに手頃な価格の空間を提供することによって、家庭や近隣でのカミングアウトを避けながら生活できるようサポートをしている。キャラクターの化身は、サイズが大きい場合には置ける余裕のある家を借りることができなかったり、化身を持ち運ぶ手段がなかったりという点で、貧しいフィクトセクシュアルにとって負担となる場合がある。また、ある程度の大きさの化身は近隣でのカミングアウトを直接引き起こす可能性が高い。そのため、これらの化身をケアするシェルターは、フィクトセクシュアルの生活に役立つかもしれない[46)]。

④特定の架空の創作物や表現を創作、所有、閲覧することを許容し、その場にいる他の人を尊重する範囲内での議論、交換、展示を保護する

架空／二次元／萌え的な創作物を制作し、所有し、閲覧し、議論し、交換し、展示することは、しばしば異常視されるものであり、近年のいわゆる「萌え絵広告問題」だけの問題ではなく、長い歴史を持つ問題でもある。たとえば日本では、多くの書店がライトノベルやマンガを購入する際に、内容が他人に見られるのを避けるための色の濃い不透明なビニール袋を提供している。これは架空の創作物に対する「クローゼット」の存在を示唆するものである。とくに性的表現を含む創作物はさらに厳格に扱われている。そして、これは社会的差別だけでなく、

有害図書規制や公然わいせつ罪やわいせつ物頒布罪などのような、各国ごとの法規制にも関連している。

同人イベントやコンベンションのなかには、この④の意味でのフィクトセクシュアル支持的空間が存在するかもしれないが、同人イベントは最終的には多くの人々が出入りする半公開の空間であるため、情報の保護を保証できない。また、一口に同人イベントと言っても国や地域によって異なる生態があり、一部の国では国家権力や企業権力による規制を被る可能性さえある。そのため、このような空間を単にファンダム≒同人コミュニティとしてだけではなく、性的マイノリティのコミュニティの基盤となるよう再構築することも重要な問題である。

もちろん、創作物の環境にはジャンルや解釈共同体によって多様性があり、ある特定の文脈での議論、交換、展示は、別のフィクトセクシュアルにとっては受け入れがたいものである可能性がある。したがって、このような行動は、その場にいる人々に対する尊重を前提としながら、空間を使う人々にとってアクセスしやすく、受け入れやすい紹介や導入をする必要がある。

こうした尊重の意味合いは、特定の規範を演繹的に適用するものではなく、その場にいる人々との協議によるものものである。そのため、④のフィクトセクシュアル支持的空間を設計する際には、固定的なゾーニングではなく適切なエリア設定をおこない、他のコミュニティのメンバーとの相互承認や理解を維持するための適切な開放性と流動性を保つ方法もまた非常に重要となる。

⑤特定の服装を着用してキャラクターとの関係性を自己表現することを許容し、保護する

筆者のフィールドでは、一部のフィクトセクシュアルの人が、キャラクターへの感情を表現するための方法として服装を用いていた。こうした服装には、いわゆる痛Ｔシャツ、ファースーツ[47]、コスプレなどが含まれることがある。アニメやマンガの普及に伴って、これらの「以前は異常視されたかもしれない」服装は徐々に受け入れられるようになってきたが、時代や環境によっては攻撃的な反応を引き起こす可能性がある。

たとえば、大中華ナショナリズムや反日主義のなかでは、「二次元」は想像力の一種として理解されるのではなく、しばしば「二次元＝日本」や「フィクトセクシュアル＝精神日本人（精日）」という幻想の等号で結びつけられる。筆者の知っている中国のフィクトセクシュアル当事者のなかには、コスプレによって家庭内暴力に巻き込まれ、父親に「叛国者」「中国人になる資格がない」と非難された人もいる[48]。また、数年前にはコスプレイヤーに対する集団襲撃事件「2022年中国反夏日祭事件」[49]が発生し、数人のコスプレイヤーが殴傷や刺傷を受けて入院したほか、食べ物に刃物が仕込まれるという故意の傷害も発生した[50]。これにより、多くのコスプレイヤーやフィクトセクシュアルが不安に陥り、非難、傷害、毒物のリスクにさらされることになった。これらの例は、特定の服装が特定の社会環境で依然としてリスクにさらされていることを示している。

他方で、これらの服装は特定の空間におけるドレスコードと衝突することがありうる。たと

えば、高級レストラン、結婚式場、ダンスパーティー、学術会議などの空間では、「スーツとドレス」というドレスコードが一般的である。これらのドレスコードは通常、ジェンダー化され、階級化された、文化帝国主義的なものであり、疑問視されずに自明視されるものである。痛 T シャツ、ファースーツ、コスプレがこのような空間で着用されると、非難や屈辱を受ける可能性がある（これらの非難はコミュニティ内から生じる場合もある）。また、フィクトセクシュアルの存在もそうした空間では見過ごされがちである。したがって、フィクトセクシュアル支持的空間は、これらの特定の服装に対する承認と保護を提供する必要がある。ただし、ドレスコードの取り決めについては、空間の公開性、公権力や大衆の眼差しがどのように影響するかなどを考える必要もある。

5　結語

本稿では、はじめに「排除の論理」と「集散の論理」に触れ、これらの発展として「抹消」と「脱－抹消化」の空間戦略・戦術を論じた。そして「ハイブリッドな対象」を脱－抹消化の戦術として提示した。次に、試論的に想像力を展開し、フィクトセクシュアルの生活経験と不安について簡単に説明したうえで、「フィクトセクシュアル支持的空間」がどのようなものなのかを考察した。この想像的労働[51]（imaginative labor）の成果は決して完成形ではなく、あくまで今後の想像力のためのひとつの支点であるため、常に修正され、さらに想像力を広げる必要がある。この支点が読者にとって啓発となり、「フィクトセクシュアル」や「フィクトセクシュアル支持的空間」についてさらに想像するための手助けとなればと願っている。これは筆者一人では達成できないものであり、読者の想像力にも依存するものである。

注

34）【松浦注】寛容という態度は、受け入れてやる側と受け入れてもらう側という不平等を維持するものである（風間 2015）。

35）【松浦注】「過度な類型化」という表現は松浦（2023a）では使っていないが、松浦（2023a）に登場する用語で言いかえれば、江原由美子の用いた、「『排除』すべきカテゴリーに属するか否か」という観点のみで認知されるという「オーヴァー・カテゴライゼーション」（江原 1985：84-5）に対応する。

36）伊藤剛（2008）によれば、萌えフォビアは「マンガのおばけ」に対する否認と、その否認の「メタ否認」である。これは本稿における「抹消」の一形態として理解できる。

37）ここは権力が存在しない場所ではない。なぜなら、ここには抵抗が存在するからである。フーコーが論じているように、「権力の関係は、無数の多様な抵抗点との関係においてしか存在し得ない」（Foucault 1976=1986：123）、「もし抵抗がないとするなら、権力関係もない

でしょう」（Foucault 1997=2002：262）。したがって、ここを権力の存在しない空間と考えるよりも、むしろ権力関係が脱領土化されている空間と考えるべきである。

38）この空間は固定されることもある。たとえば、ゲットー、都市にある橋の下、特定のフォーラム、占拠運動の成果が挙げられるかもしれない。他方で一時的なものとしては、キャンプ地、一時的に借りられた地下室、偶発的な集会運動やSNS上の小さなディスカッションなどが挙げられる。

39）【松浦注】松浦（2023a）は、抹消を被る側が自身の被っている問題を認識するという現象を、シュッツの言う「驚き」として考察していた。これに対して、廖はここで「驚き」を、当事者が自身の被る問題を自覚するという現象のみに限定せず、他者に気づきをもたらす現象も含むものとして考察している。

40）この論文で挙げられている具体例は、ある妄想（delusion）患者が持っている携帯電話である。この患者は、その電話を聞くことでスターリンとコミュニケーションをとることができ（オルタナティブな現実）、また電話を置くことで至高の現実に戻ることができる（Cermolacce et al. 2018）。またこの論文では、ハイブリッドな対象を創造する方法も指摘されている。

> 『ドン・キホーテ』（Schutz 1964=1991：201）の旅では、主人公が騎士道的現実で床屋の金盥を兜だと主張しているのに対して、従者のサンチョ・パンサはその物体を「盥兜」と呼ぶことで、妥協的な解決を見出す。すなわち、「言説の下位宇宙」を確立し、危険なほどの衝突状況をほぐすことを可能にする、純粋な言語対象である。（Cermolacce et al. 2018）

41）【松浦注】「創造、知覚、相互作用の行為」という表現は、テリ・シルヴィオによる「アニメーション」概念の説明に由来する（Silvio 2019：19）。

42）このフィールドは主に「台大オタク研究読書会」とその関連ネットワークである。このフィールドの紹介については、廖（2024）を参照。

43）「物質化した化身」は、台湾華語の原文では「物質化身」である。「化身」は仏教の文脈に由来する用語で、霊体などの存在が具現化された形式や、身体の変化の形式を指すものである。この言葉は台湾華語では日常言語に近い表現である。一方で、台湾華語では「アバター」も同様に「化身」と訳される。たとえば、シェリー・タークルの『接続された心』は、繁体字版では『バーチャルな化身（虚擬化身）』と翻訳されている。

44）この調査は、2023年10月に本稿の元となる記事を書いた際、筆者自身のTwitter（現X）の投票機能で行った、ごく小規模なものである（https://twitter.com/SorenLiao/status/1715771785466261580）。総投票数は22人だった。これは厳密な社会調査ではなく、あくまで自分の想像力を触発するために利用したものである。

45）筆者の研究協力者たちは「共有できる存在」と「共有できない存在」を区別できるとしており、これを（斎藤環の表現を借りて）「多重見当識」と呼ぶことがあった。

46）あるフィクトセクシュアルによれば、このモデルは、寺院に祖霊や位牌を送って供えるという漢民俗の実践に似ているかもしれない。筆者はかつて、研究協力者と「キャラクターの後事」について話し合ったことがある。つまり、フィクトセクシュアルの人が亡くなった後に、その人のキャラクターや化身をどのように安置するかという問題である。その研究協力者も、台湾で言う「霊骨塔」を例に挙げ、このような空間形式について言及していた。

47）【松浦注】ファースーツ（fursuit）とは、ファーリーの人々が用いる、動物のキャラクターを模した着ぐるみのことである。ファーリーの着ぐるみに関する実践については、猪口智広の研究を参照（猪口 2018）。

48）この情報は「中国フィクトセクシュアル協会（中国纸性恋协会）」というコミュニティのメンバーから得たものである。

49）蔡浩騰，2022,「動漫節｜中國抵制夏日祭、竟威脅 Coser 人身安全 傳有人被捅數刀」『香港01』（2024年３月12日取得，https://www.hk01.com/%E9%81%8A%E6%88%B2%E5%8B%95%E6%BC%AB/797913/%E5%8B%95%E6%BC%AB%E7%AF%80-%E4%B8%AD%E5%9C%8B%E6%8A%B5%E5%88%B6%E5%A4%8F%E6%97%A5%E7%A5%AD-%E7%AB%9F%E5%A8%81%E8%84%85coser%E4%BA%BA%E8%BA%AB%E5%AE%89%E5%85%A8-%E5%82%B3%E6%9C%89%E4%BA%BA%E8%A2%AB%E6%8D%85%E6%95%B8%E5%88%80）.

50）近年は、特定の政治的イデオロギーを持つ人々による自発的な行動だけでなく、中国政権もさまざまな性的マイノリティやサブカルチャーのコミュニティを抑圧し続けている。しかし、これらの抑圧戦略とその抵抗戦略に関する研究はまだ十分に進んでいない。

51）先の注で触れた「解釈労働」と同じく、グレーバーの『官僚制のユートピア』に由来する言葉である。

文　　献

Aburime, Samantha. 2024. “The Influence of Transphobia, Homonationalism and Anti-Asian Prejudice: Anti-BL Attitudes in English-Speaking Fandoms.” East Asian Journal of Popular Culture, February. https://doi.org/10.1386/eapc_00119_1.

網野善彦，1996,『増補 無縁・公界・楽』平凡社.

東浩紀，2011,「想像界と動物的通路 ── 形式化のデリダ的諸問題」『サイバースペースはなぜそう呼ばれるか＋ ── 東浩紀アーカイブス２』河出書房新社，232-60.

Barad, Karen, 2007, *Meeting the Universe Halfway: Quantum Physics and the Entanglement of Matter*

and Meaning, Durham: Duke University Press.（水田博子・南菜緒子・南晃訳，2023，『宇宙の途上で出会う ── 量子物理学からみる物質と意味のもつれ』人文書院.）

Berlant, Lauren and Michael Warner, 1998, “Sex in Public.” *Critical Inquiry*, 24(2): 547-66.

別冊宝島編集部編，1989，『「おたく」の本』宝島社.

Bhabha, Homi K. 2004. *The Location of Culture*. Abingdon: Routledge.（本橋哲也・正木恒夫・外岡尚美・阪元留美訳，2012，『文化の場所 ── ポストコロニアリズムの位相』法政大学出版局.）

Butler, Judith, 1990, *Gender Trouble: Feminism and The Subversion of Identity*, Routledge.（竹村和子訳，1999，『ジェンダー・トラブル ── フェミニズムとアイデンティティの攪乱』青土社.）

────, 1999, “Preface（1999）” in *Gender Trouble: Feminism and the Subversion of Identity*, New York, Routledge.（高橋愛訳，2000，「『ジェンダー・トラブル』序文（1999）」『現代思想』28(14)：66-83.）

Cermolacce, Michel, Katherine Despax, Raphaëlle Richieri and Jean Naudin, 2018, “Multiple Realities and Hybrid Objects: A Creative Approach of Schizophrenic Delusion,” *Frontiers in Psychology*, 9: 107. https://doi.org/10.3389/fpsyg.2018.00107

江原由美子，1985，『女性解放という思想』勁草書房.

Foucault, Michel, 1976, *La volonté de savoir*（*Volume 1 de Histoire de la sexualité*）, Paris: Éditions Gallimard.（渡辺守章訳，1986，『性の歴史Ⅰ 知への意志』新潮社.）

────. 1997. “Sex, Power, and the Politics of Identity,” in *Ethics: Subjectivity and Truth*. Paul Rabinow ed., New York: The New Press. 163-73.（西兼志訳，2002，「ミシェル・フーコー、インタヴュー ── 性、権力、同一性の政治」蓮實重彦・渡辺守章 監修／小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編『ミシェル・フーコー思考集成 X── 倫理　道徳　啓蒙』筑摩書房，255-68.）

Fricker, Miranda, 2007, *Epistemic Injustice: Power and the Ethics of Knowing*, Oxford: Oxford University Press.（佐藤邦政監訳，2023，『認識的不正義 ── 権力は知ることの倫理にどのようにかかわるのか』勁草書房.）

藤本由香里，1991，「少女マンガにおける『少年愛』の意味」水田宗子編『ニュー・フェミニズム・レビュー②女と表現 ── フェミニズム批評の現在』学陽書房，280-4.

藤高和輝，2023，「語りを掘り起こす ── トランスの物質性とその抹消に抗する語り」菊地夏野・堀江有里・飯野由里子編『クィア・スタディーズをひらく３　健康／病，障害，身体』晃洋書房，22-45.

Galbraith, Patrick W. 2011. “Lolicon: The Reality of ’Virtual Child Pornography’in Japan.” *Image & Narrative* 12(1): 83-119.

────, 2019, *Otaku and the Struggle for Imagination in Japan*. Duke University Press.

Graeber, David, 2015, *The Utopia of Rules: On Technology, Stupidity, and the Secret Joys of Bureaucracy*,

New York: Melville House.（酒井隆史訳，2017，『官僚制のユートピア ── テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則』以文社.）

Hales, Molly. 2019. Animating Relations: Digitally Mediated Intimacies between the Living and the Dead. Cultural Anthropology, 34(2): 187-212.

Haraway, Donna, 1991, *Simians, Cyborgs, and Women: The Reinvention of Nature*, Routledge.（高橋さきの訳，2000，『猿と女とサイボーグ ── 自然の再発明』青土社.）

────, 2015, "Anthropocene, Capitalocene, Plantationocene, Chthulucene: Making Kin," *Environmental Humanities*, 6(1): 159-65.（高橋さきの，2017，「人新世、資本新世、植民新世、クトゥルー新世 ── 類縁関係をつくる」『現代思想』45(22)：99-109.）

濱野ちひろ，2019，『聖なるズー』集英社.

橋本典子，2001，「人格（ペルソナ）について ── 対物倫理（ethica ad rem）を通して」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』 9 ：13-24.

徐亦霆，2024，「讓角色『活』起來：初探台灣獸迷社群基於獸設的粉絲實踐」劉定綱・李衣雲編『故事與另外的世界：台灣 ACG 研究學會年會論文集 1 』奇異果文創，61-87。

猪口智広，2018，「ヴァーチャルなキャラクターの操演と動物性についての試論」『ユリイカ』50(9)：223-9.

伊藤剛，2008，「『萌え』と『萌えフォビア』」『國文學：解釈と教材の研究』53(16)：14-25.

Jentsch, Ernst, 1906, Document: 'On the Psychology of the Uncanny' Translated by Roy Sellars, 2008, In Collins J, Jervis J, editors, *Uncanny Modernity: Cultural Theories, Modern Anxieties*. *Basingstoke*: Palgrave Macmillan. 216-28.

Karaian, Lara. 2024. "Plastic Fantastic: Sex Robots and/as Sexual Fantasy." *Sexualities* 27(3): 633-52.

Karhulahti, Veli Matti and Tanja Välisalo, 2021, "Fictosexuality, Fictoromance, and Fictophilia: A Qualitative Study of Love and Desire for Fictional Characters," *Frontiers in Psychology*, 11, Retrieved August 13, 2021（https://doi.org/10.3389/fpsyg.2020.575427）.

風間孝，2015，「性的マイノリティをとりまく困難と可能性 ── 同性愛者への寛容と構造的不正義」大澤真幸編『身体と親密性の変容』岩波書店，263-88.

Kubes, Tanja. 2019. "New Materialist Perspectives on Sex Robots. A Feminist Dystopia/Utopia?" *Social Sciences* 8(8): 224.

Lamarre, Thomas, 2009, *The Anime Machine: A Media Theory of Animation*, University of Minnesota Press.（藤木秀朗監訳，2013，『アニメ・マシーン ── グローバル・メディアとしての日本アニメーション』名古屋大学出版会.）

廖希文，2024，「紙性戀處境及其悖論：情動、想像、賦生關係」劉定綱・李衣雲編『故事與另外的世界：台灣 ACG 研究學會年會論文集 1 』奇異果文創，169-210.

林文玲，2017，「從田野到視野 ── 跨性別／肉身的體現、重置與挑戰」『考古人類學刊』15(1)：53 102.

羅盤針，2021，「跨入偽娘時空 ── 北台灣扮裝社群的性別越界」臺灣大學人類學系2021年碩士論文.

Manning, Paul and Ilana Gerson. 2013. Animating interaction. *HAU: Journal of Ethnographic Theory*. 3（3）: 107-37.

Marsh, Amy. 2010. “Love among the Objectum Sexuals.” *Electronic Journal of Human Sexuality* 13. Retrieved September 30, 2022（http://www.ejhs.org/volume13/ObjSexuals.htm）.

松浦優，2021a，「二次元の性的表現による『現実性愛』の相対化の可能性 ── 現実の他者へ性的に惹かれない『オタク』『腐女子』の語りを事例として」『新社会学研究』（5）：116-36.

────，2021b，「日常生活の自明性によるクレイム申し立ての「予めの排除／抹消」──「性的指向」概念に適合しないセクシュアリティの語られ方に注目して」『現代の社会病理』（36）：67-83.

────，2022a，「メタファーとしての美少女 ── アニメーション的な誤配によるジェンダー・トラブル」『現代思想』50（11）：63-75.

────，2022b，「アニメーション的な誤配としての多重見当識 ── 非対人性愛的な「二次元」へのセクシュアリティに関する理論的考察」『ジェンダー研究』（25）：139-57.

────，2022c，「対人性愛中心主義とシスジェンダー中心主義の共通点 ── 『萌え絵広告問題』と『トランスジェンダーのトイレ使用問題』から」境界線の虹鱒（はてなブログ），https://mtwrmtwr.hatenablog.com/entry/2022/11/30/211753，（2024年３月13日取得）.

────，2023a，「抹消の現象学的社会学 ── 類型化されないことをともなう周縁化について」『社会学評論』74（1）：158-74.

────，2023b，「フィクトセクシュアルから考えるジェンダー／セクシュアリティの政治」，公開講座「從紙性戀思考性與性別的政治」日本語版講演資料，https://researchmap.jp/mtwrmtwr/presentations/42871322,（retrieved March 13, 2024）.

────，2024a，「素肉は肉より出でて、しかし肉には非らず ── ヒューマノジェンダリズム批判序説」攻殻機動隊 M.M.A. - Messed Mesh Ambitions_，https://theghostintheshell.jp/mma/column/column09.（2024年５月６日取得）.

────，2024b［近刊］，「エンコーディング／デコーディング論の脱－人間中心化 ── 物質的な誤配のメディア理論」『年報カルチュラル・スタディーズ』12.

McCallum, E. L. 1998. *Object Lessons: How to Do Things with Fetishism*. Albany: State University of New York Press.

McLelland, Mark. 2005. “The World of Yaoi: The Internet, Censorship and the Global ‘Boys’ Love’ Fandom.” *Australian Feminist Law Journal* 23（1）: 61-77.

Miles, Elizabeth, 2020, “Porn as Practice, Porn as Access: Pornography Consumption and a ‘Third Sexual Orientation’ in Japan” *Porn Studies*, 7（3）: 269-78.

日本性教育協会編，2019，『「若者の性」白書 ── 第８回青少年の性行動全国調査報告』小学館.

Nozawa, Shunsuke, 2013. Characterization, *Semiotic Review*, 3, https://www.semioticreview.com/ojs/index.php/sr/article/view/16.（retrieved February 4, 2024）.

大塚英志，2004，『「おたく」の精神史 ── 一九八〇年代論』講談社.

大貫挙学，2014，『性的主体化と社会空間 ── バトラーのパフォーマティヴィティ概念をめぐって』インパクト出版会.

Preciado, Paul B., 2018, *Countersexual Manifesto*, Translated by Kevin Gerry Dunn. Columbia University Press.（藤本一勇訳，2022，『カウンターセックス宣言』法政大学出版局.）

Przybylo, Ela, 2011, "Crisis and Safety: The Asexual in Sexusociety," *Sexualities* 14（4）: 444-461.

Przybylo, Ela and Danielle Cooper, 2014, "Asexual Resonances: Tracing a Queerly Asexual Archive," *GLQ A Journal of Lesbian and Gay Studies*, 20（3）: 297-318.

Rudy, Kathy. 2012. "LGBTQ…Z?" *Hypatia* 27（3）: 601-15.

斎藤環，2000，『戦闘美少女の精神分析』太田出版.

逆巻しとね，2024，「非人間的友情という隘路 ── 最小の友情、そしてダナ・ハラウェイ「かけがえのないタガい」」『現代思想』52（9）：177-92.

関根麻里恵，2018，「ラブドール研究試論」『身体表象：学習院大学身体表象文化学会会誌』（1）：64-72.

Silvio, Teri, 2010, "Animation: The New Performance?" *Journal of Linguistic Anthropology* 20（2）: 422-38.

————, 2019, *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*, University of Hawaii Press.

Schutz, Alfred, 1964, *Collected Papers II: Studies in Social Theory*, The Hague: Martinus Nijhoff.（渡部光・那須壽・西原和久訳，1991，『アルフレッド・シュッツ著作集第３巻 社会理論の研究』マルジュ社.）

————, 1970, *The Refrections on the Problem of Relevance*, Yale : Yale University Press.（那須壽・浜日出夫・今井千恵・入江正勝訳，1996，『生活世界の構城 ── レリヴァンスの現象学』マルジュ社.）

Sprinkle, Annie, Beth Stephens, and Jennie Klein. 2021. *Assuming the Ecosexual Position: The Earth as Lover*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

田中雅一，2009，「フェティシズム研究の課題と展望」田中雅一編『フェティシズム研究 1 フェティシズム論の系譜と展望』京都大学出版会，3-38.

Thomasson, Amie L. 1999. *Fiction and Metaphysics*. Cambridge : Cambridge University Press.

Yiu, Wai-hung and Alex Ching-shing Chan, 2013, "Kawaii" And "Moe" — Gazes, Geeks（Otaku）, and Glocalization of Beautiful Girls（Bishōjo）in Hong Kong Youth Culture. *Positions: East Asia Cultures Critique*, 21（4）: 853-84.

上野千鶴子，2018，『女ぎらい ── ニッポンのミソジニー』朝日新聞出版.